



思當也

高係

豫

云編

於



笑教化

困負



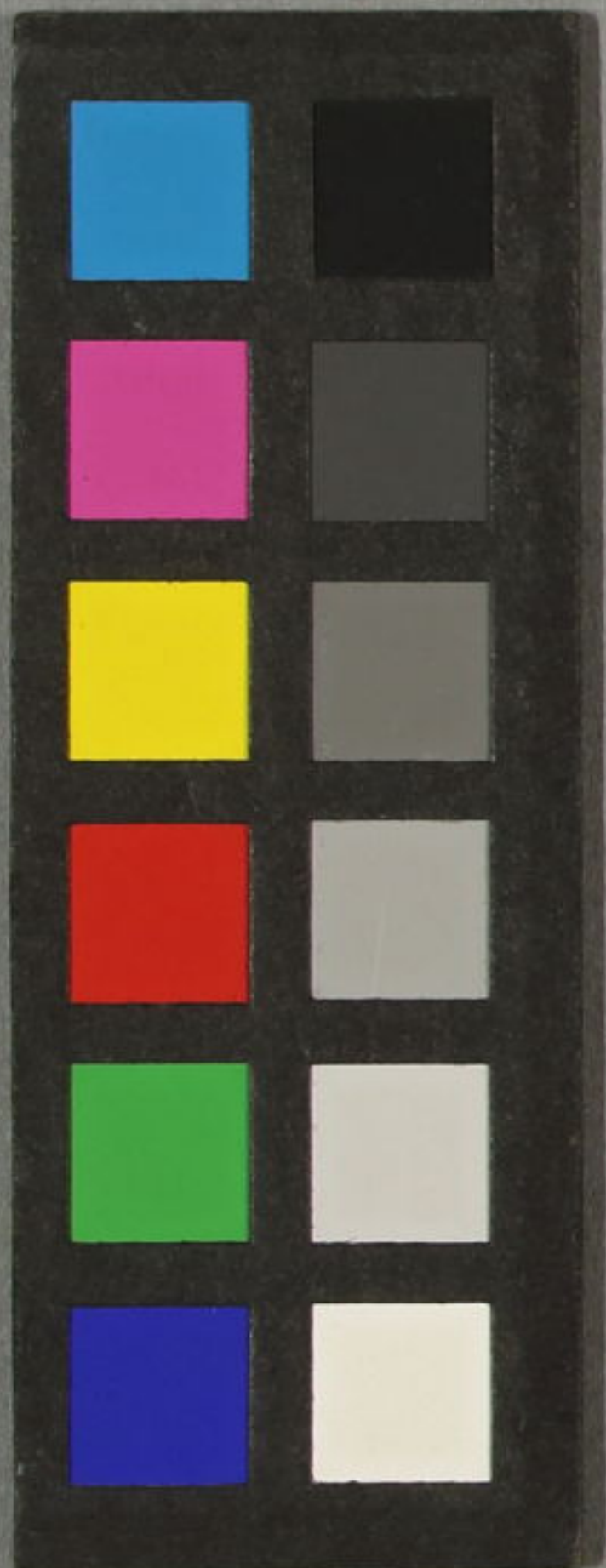
山溪

甘象

梓

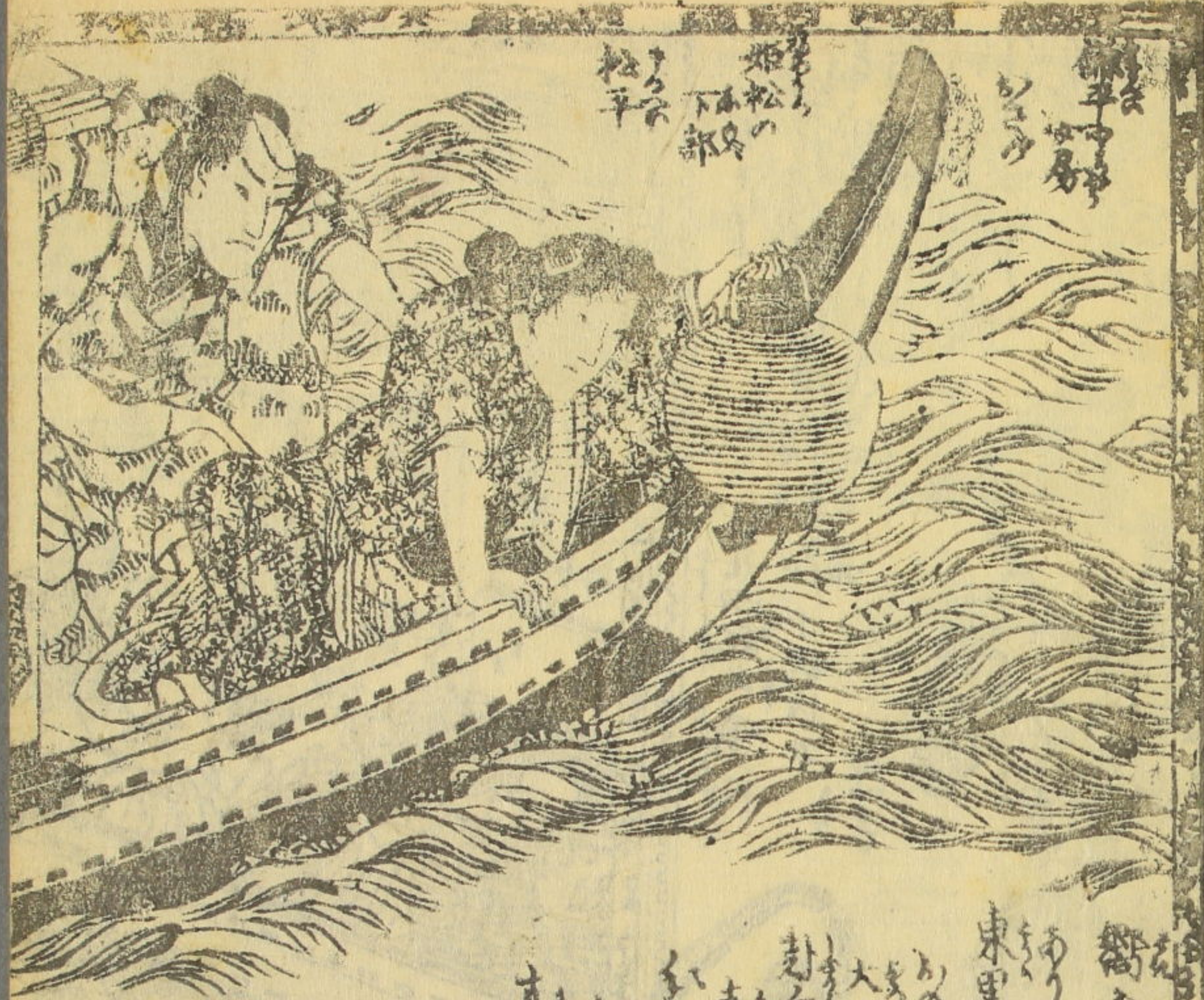
5

^13
3877
2



兒雷也
豪傑
譚
三編
上

門 八 13
號 3877
卷 2



松平 下松の部

鶴小漫亭鬼武主人の自來也説話
 あり年を隔てて遠甘泉堂に
 東里ぬの女志士のやを板にせり
 あのかく作意の妙香山懐巻に
 大戦の行々をいそいで
 赴向をむとすとの編二編と
 賣出せし素人細工に
 多げく蛙の面へ異國垣々
 吹出さるる作者の
 喜似事大物との人も
 いしかりた石のそ人も
 之編月をわわわ
 ひとかへる繪を極も
 ねえのしび出さるるほど
 西にみよる成る所の
 山あらし雨車の音まはる
 大とろくの音人の心ま

見聞の傑
豪雷

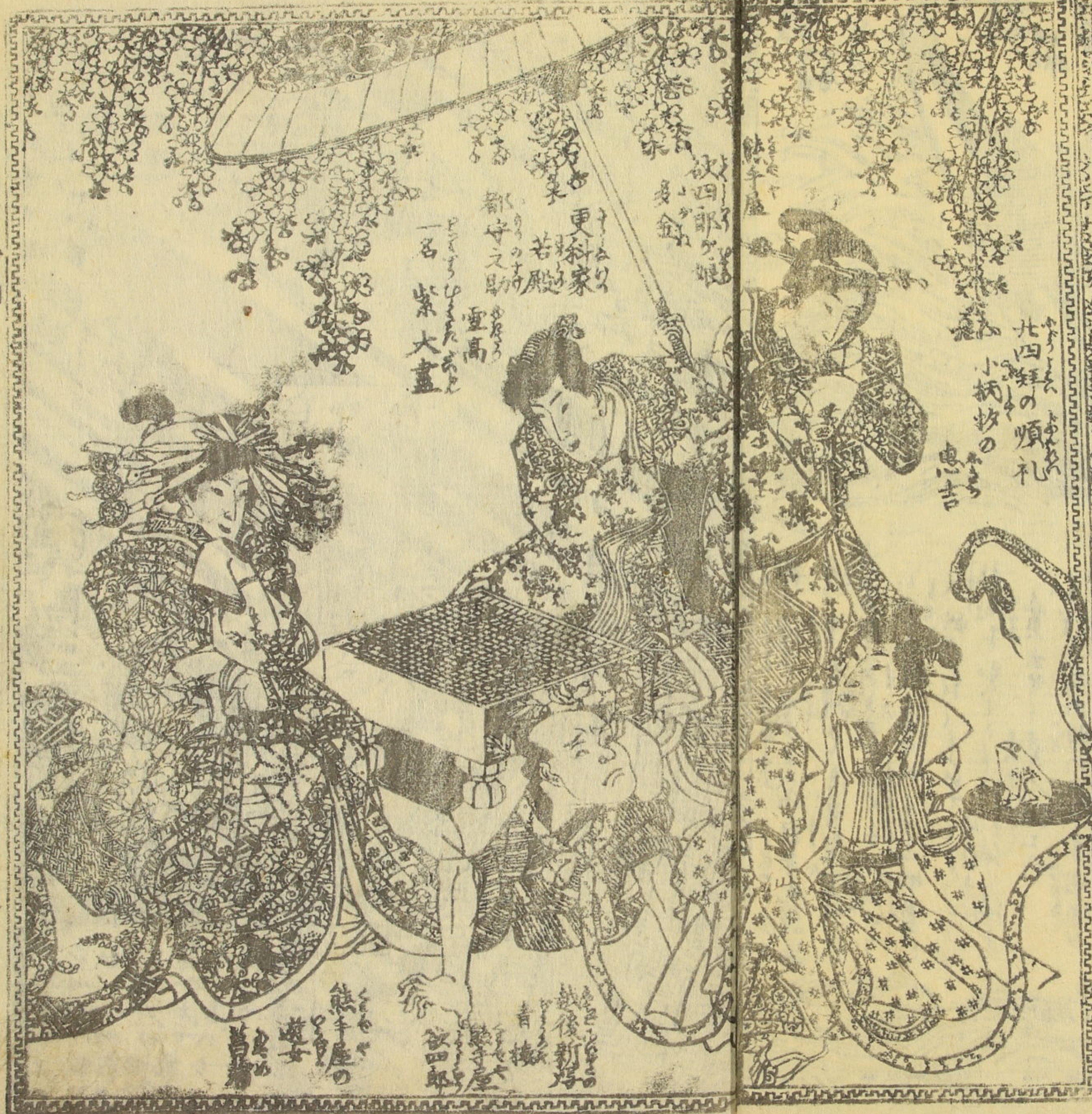
譚三編

笑顔作
四頁五
全四冊



和泉屋
市兵衛梓

龍巻
下部
録平

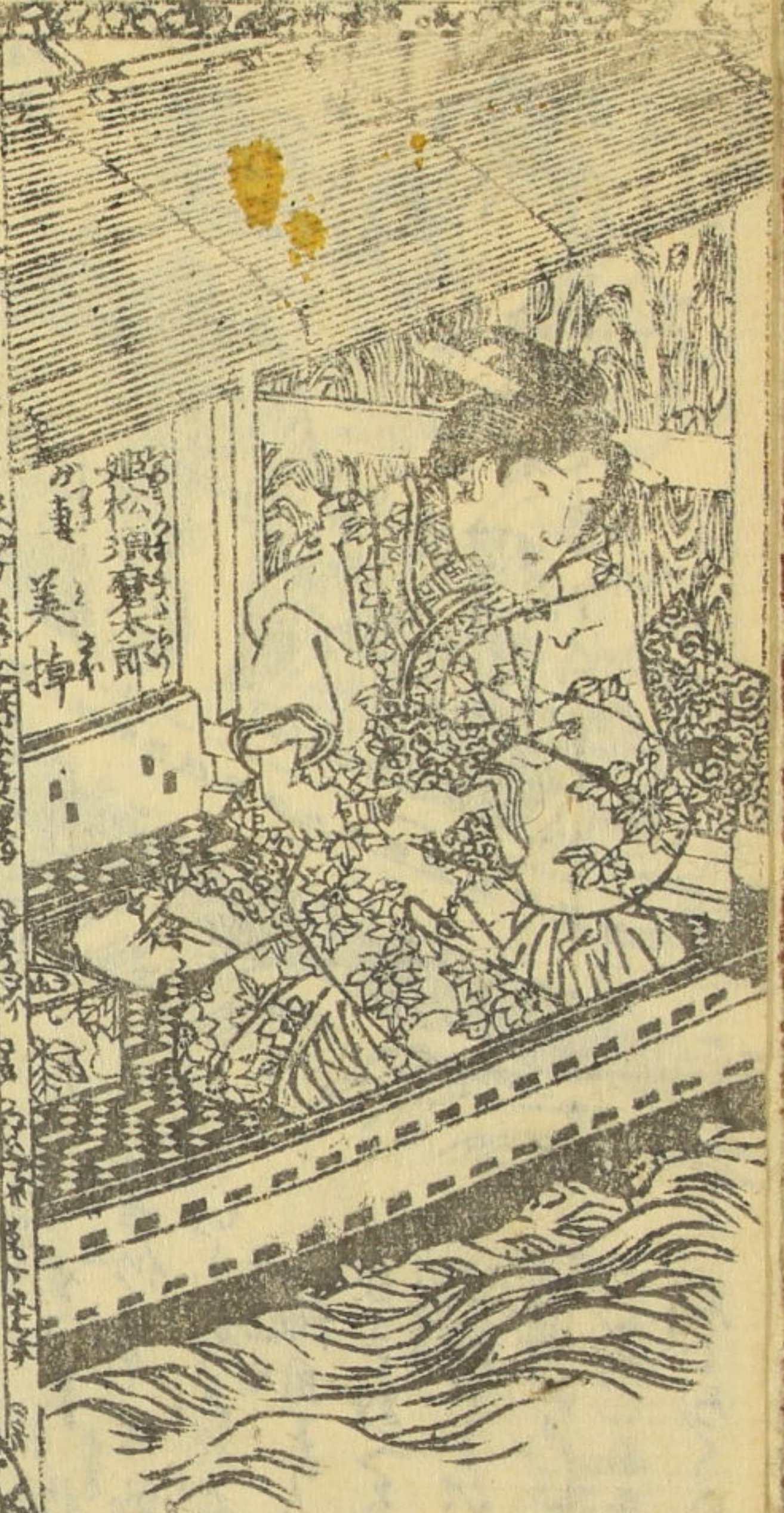


更科家
若殿
都守之助
重高
一名紫大盡

武四郎の娘
長命

北四郎の頼礼
小柄抄の
徳吉

熊手屋の
遊女
若殿
武四郎
最後新居
青柳

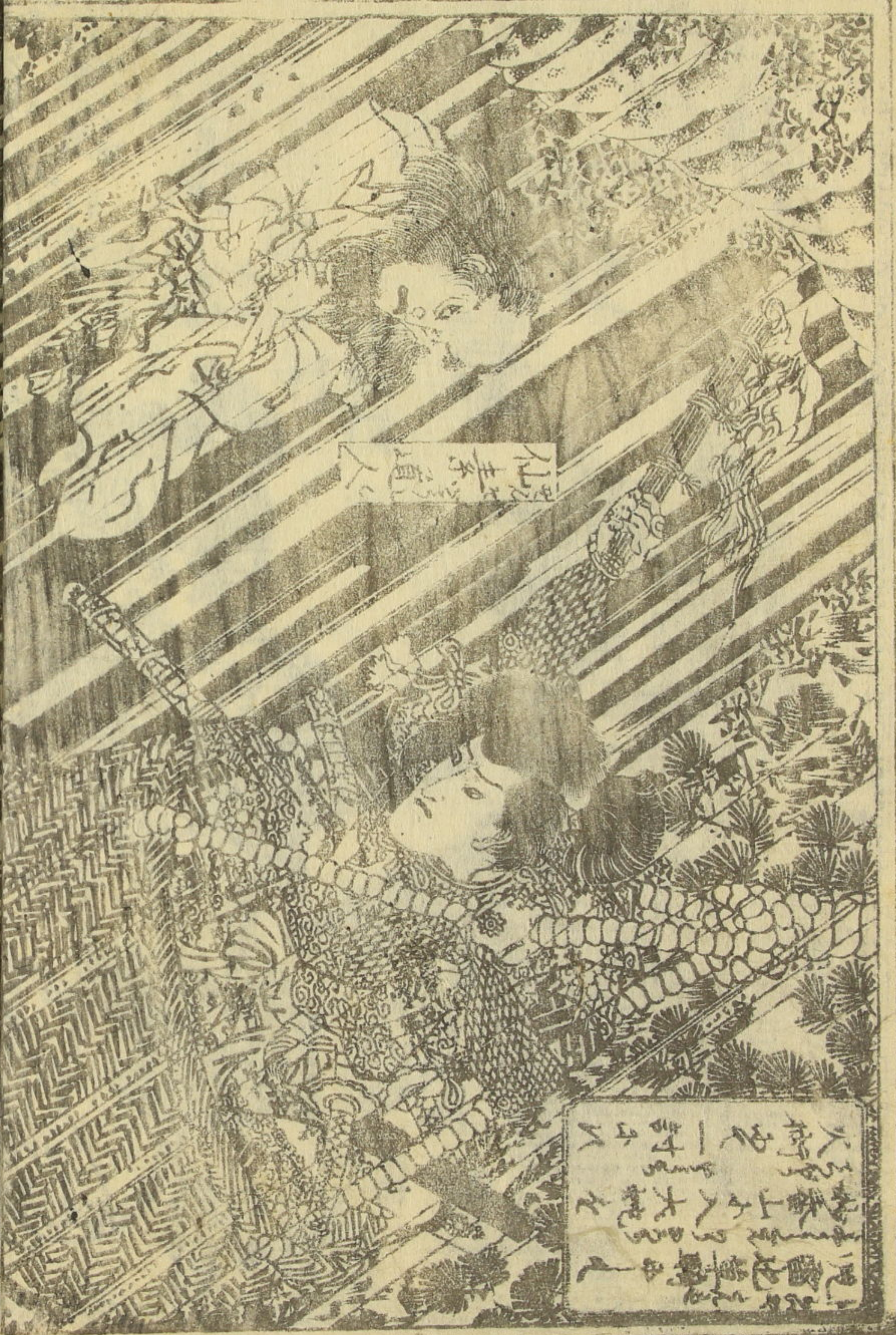
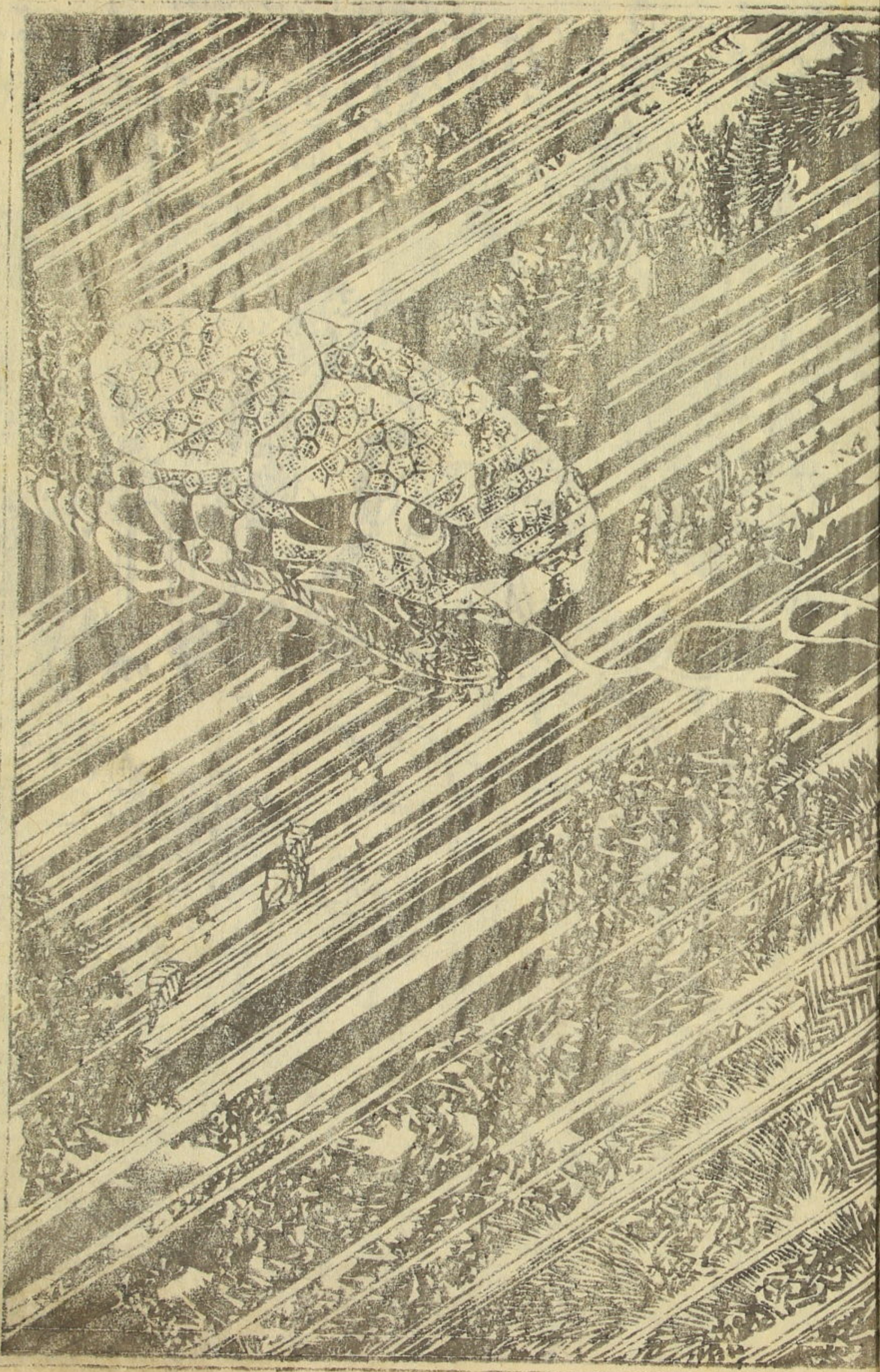


美輝
松浦

美圖垣
笑顔



此年の幕の内
此年の幕の内
此年の幕の内

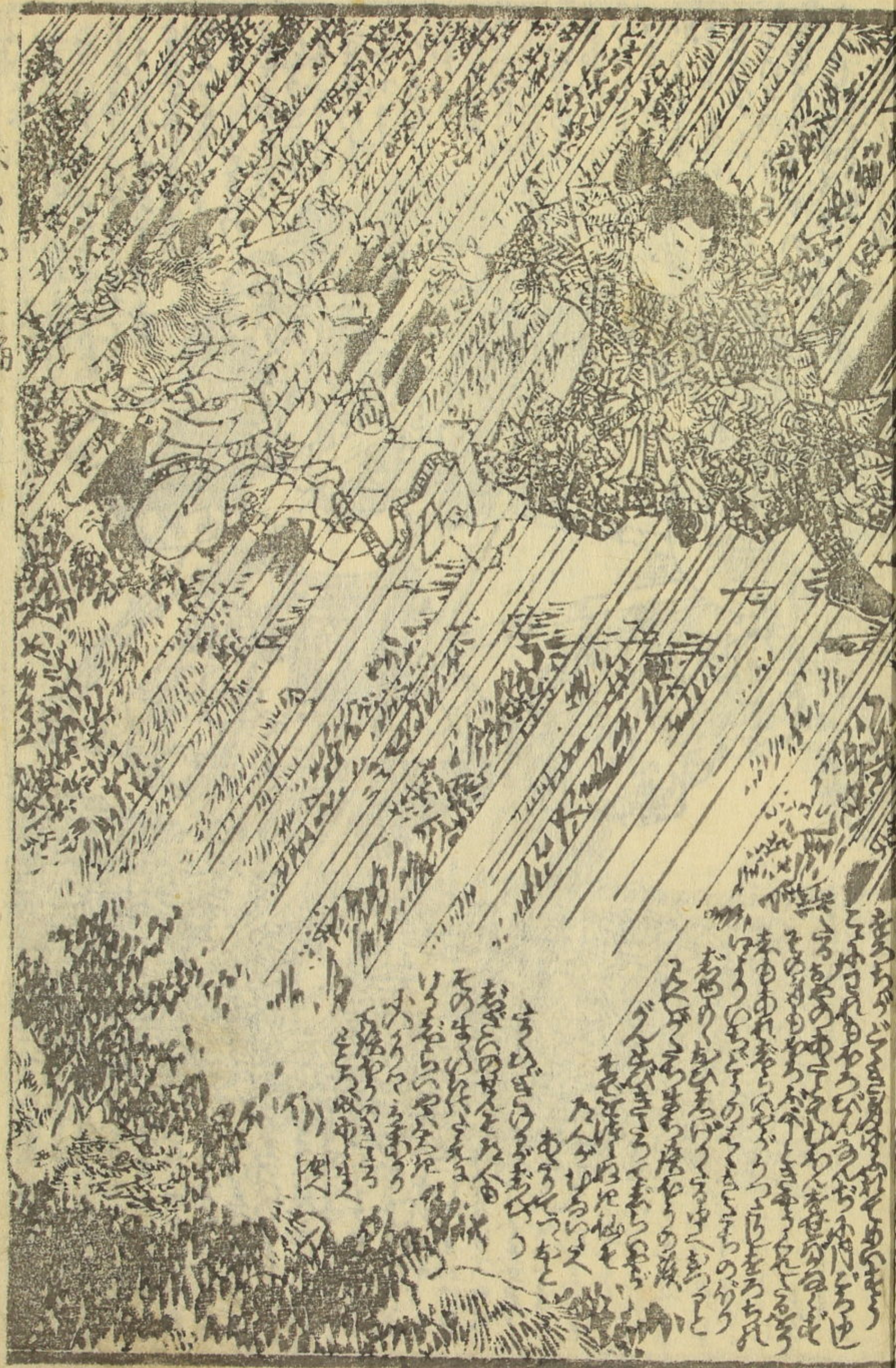


仙舟渡

仙舟渡
 舟中一人
 舟中一人
 舟中一人
 舟中一人



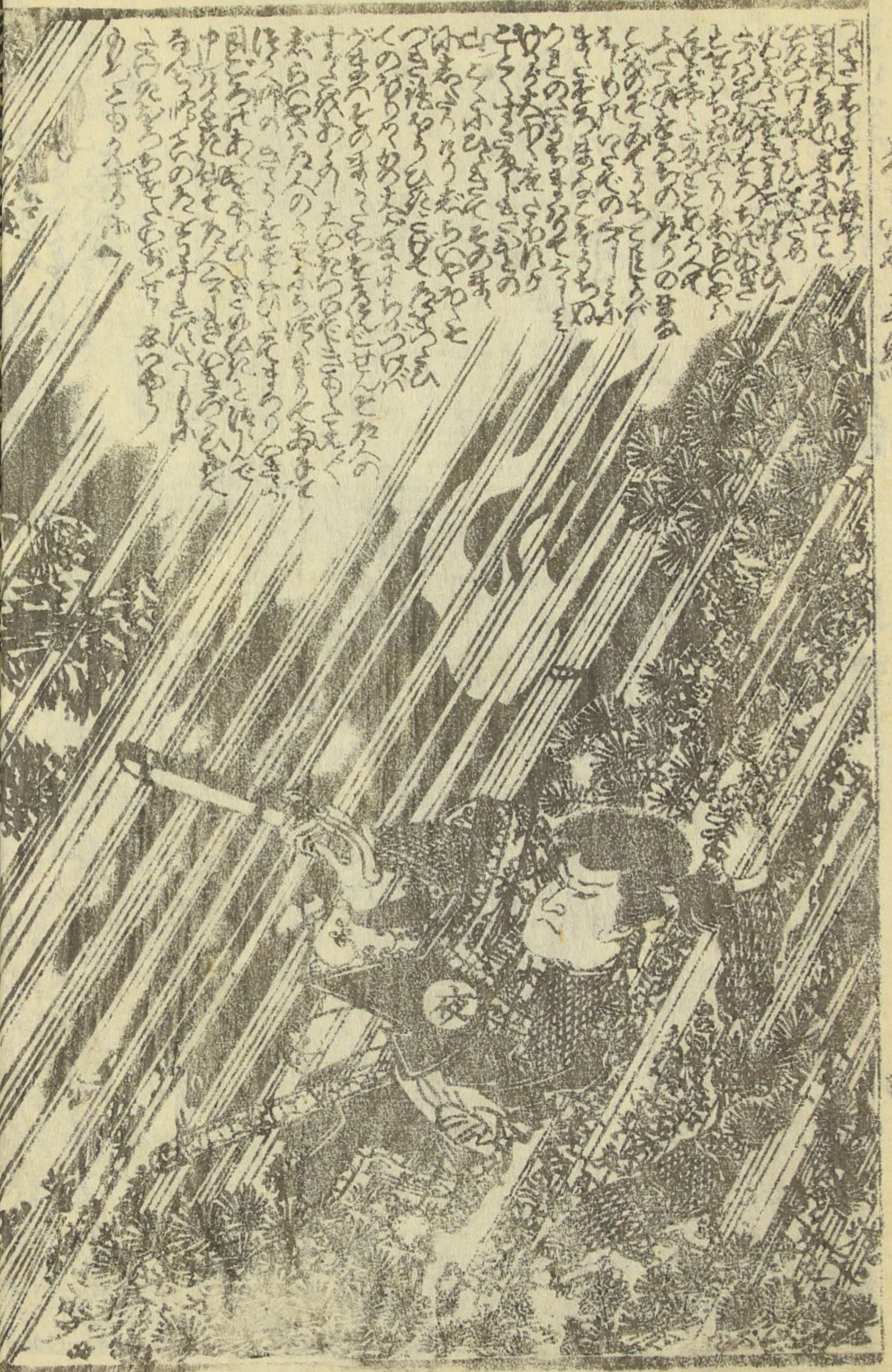
55 (下) 箱



あつちのうへを
おのりおのり
いそいそと
まはりまはり
あつちのうへを
おのりおのり
いそいそと
まはりまはり
あつちのうへを
おのりおのり
いそいそと
まはりまはり
あつちのうへを
おのりおのり
いそいそと
まはりまはり
あつちのうへを
おのりおのり
いそいそと
まはりまはり

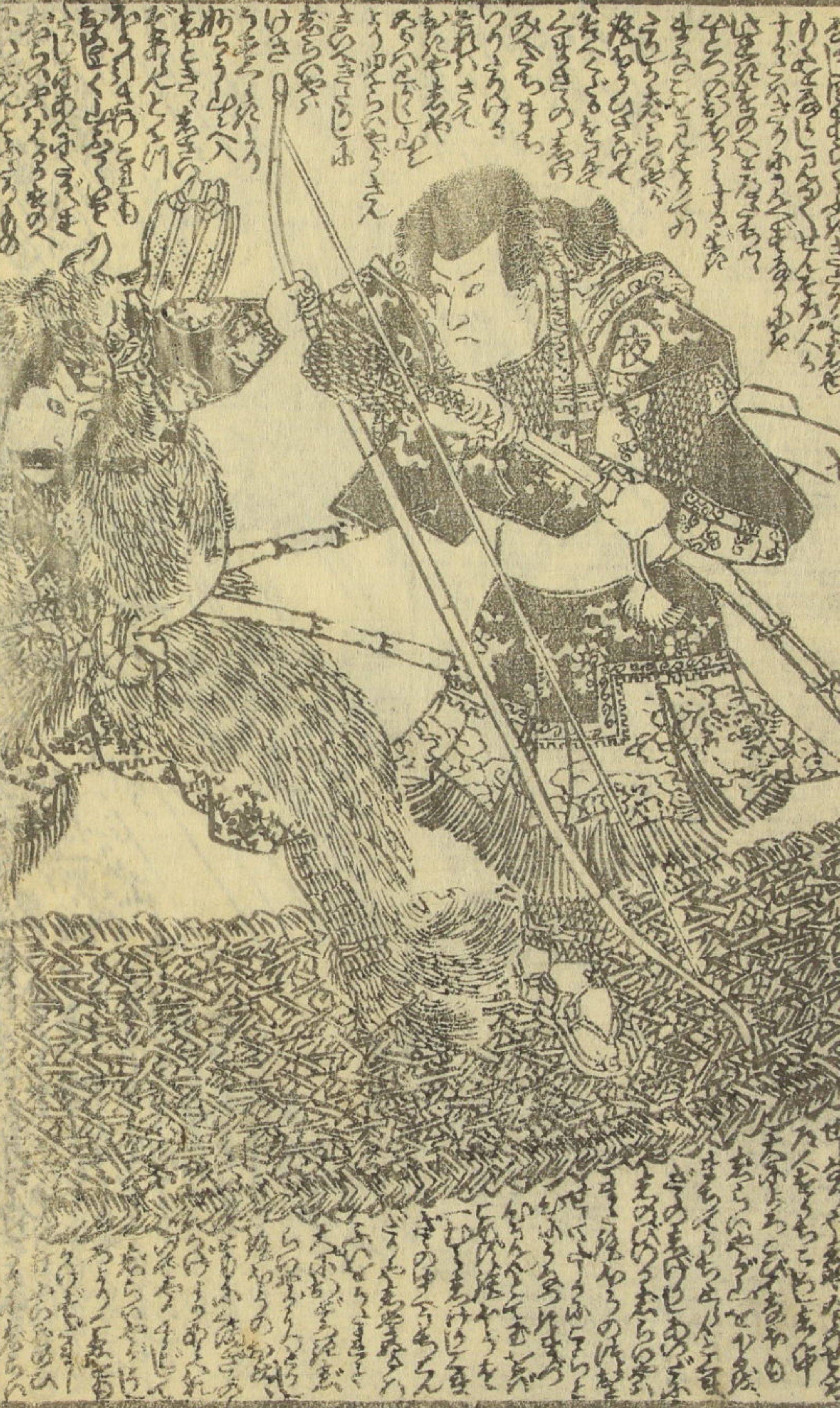
あつちのうへを
おのりおのり
いそいそと
まはりまはり
あつちのうへを
おのりおのり
いそいそと
まはりまはり
あつちのうへを
おのりおのり
いそいそと
まはりまはり
あつちのうへを
おのりおのり
いそいそと
まはりまはり
あつちのうへを
おのりおのり
いそいそと
まはりまはり

あつちのうへを



あつちのうへを

あつてはつてとてつて天つてふつてふつて
あつてはつてとてつて天つてふつてふつて

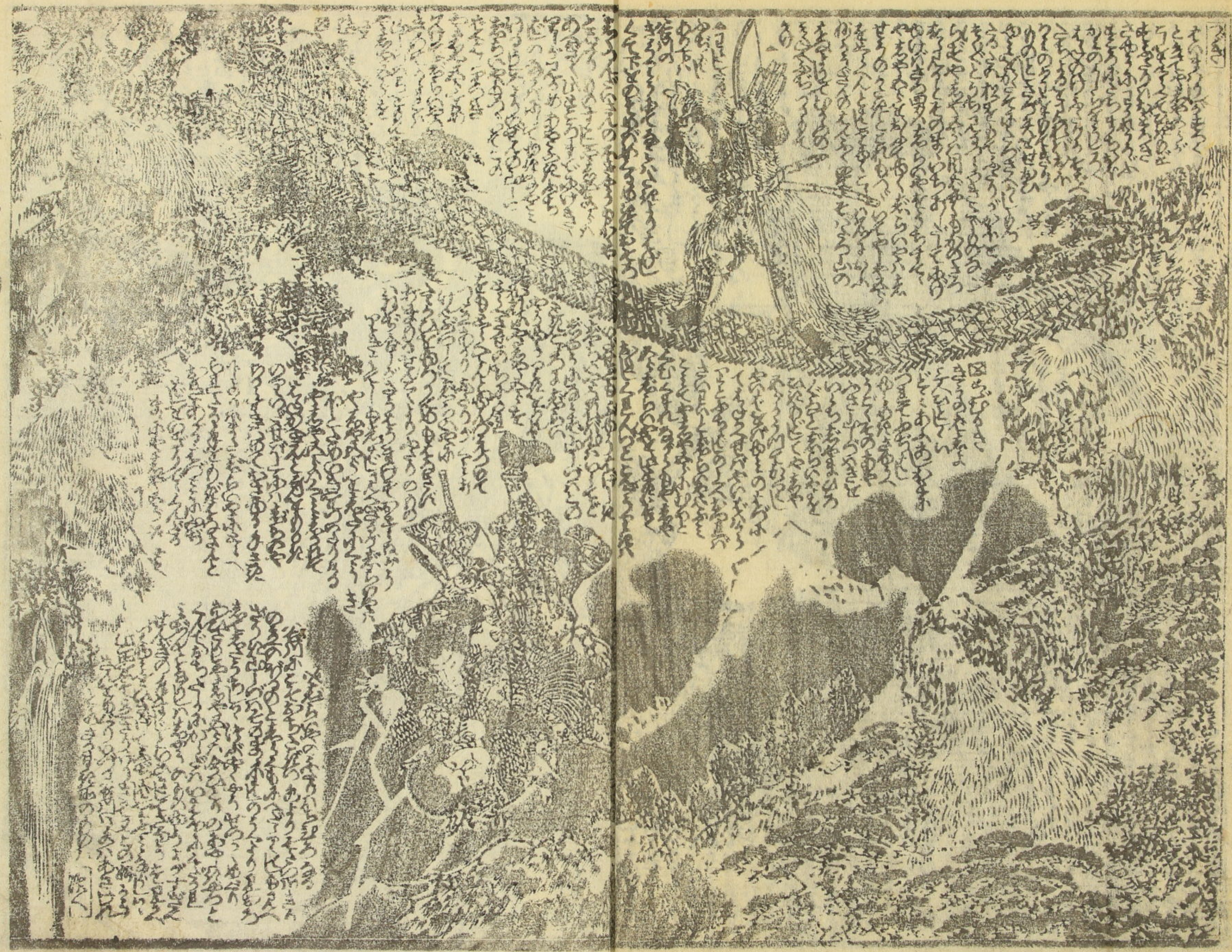


あつてはつてとてつて天つてふつてふつて
あつてはつてとてつて天つてふつてふつて



あつてはつてとてつて天つてふつてふつて
あつてはつてとてつて天つてふつてふつて

あつてはつてとてつて天つてふつてふつて

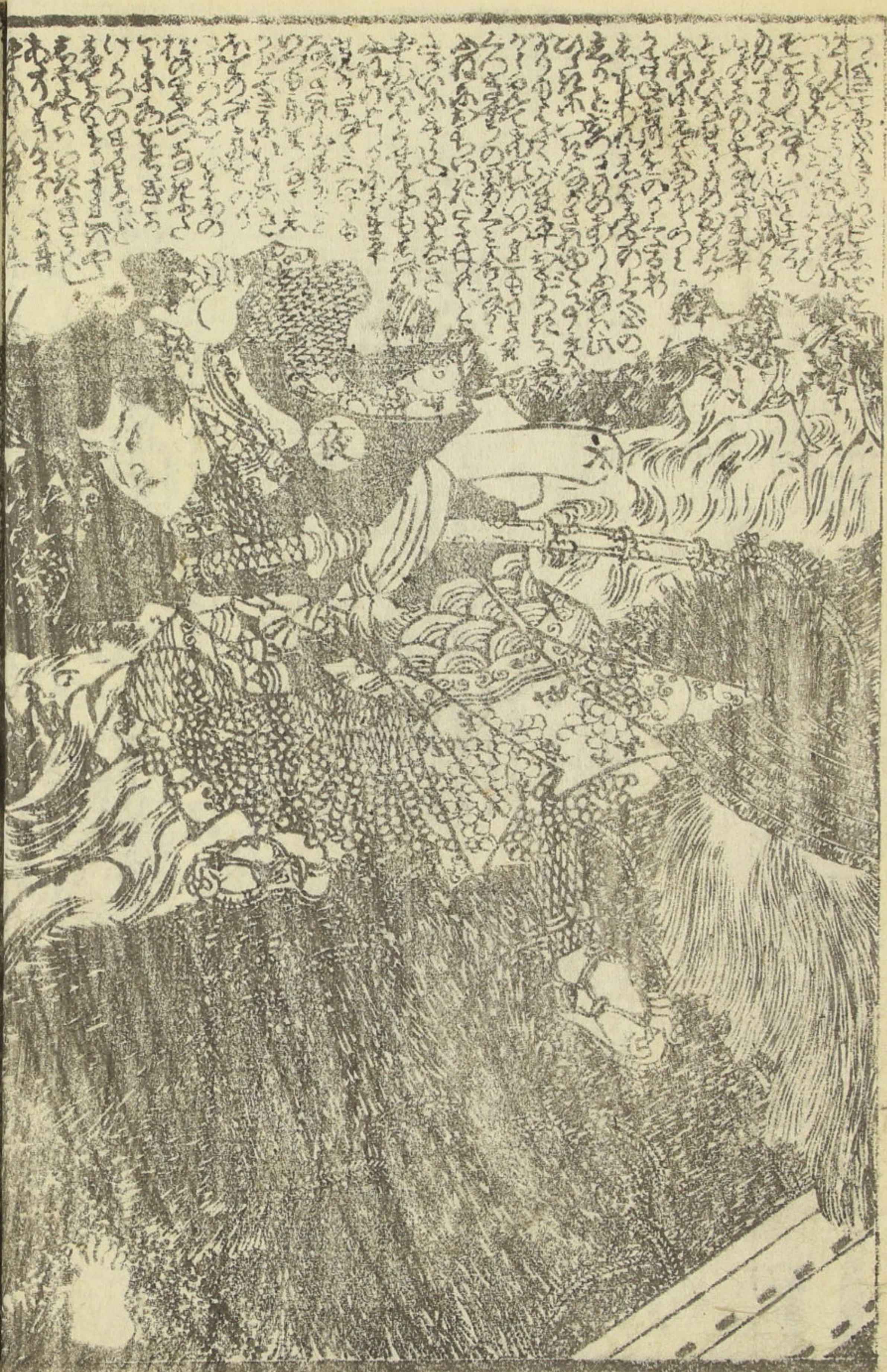


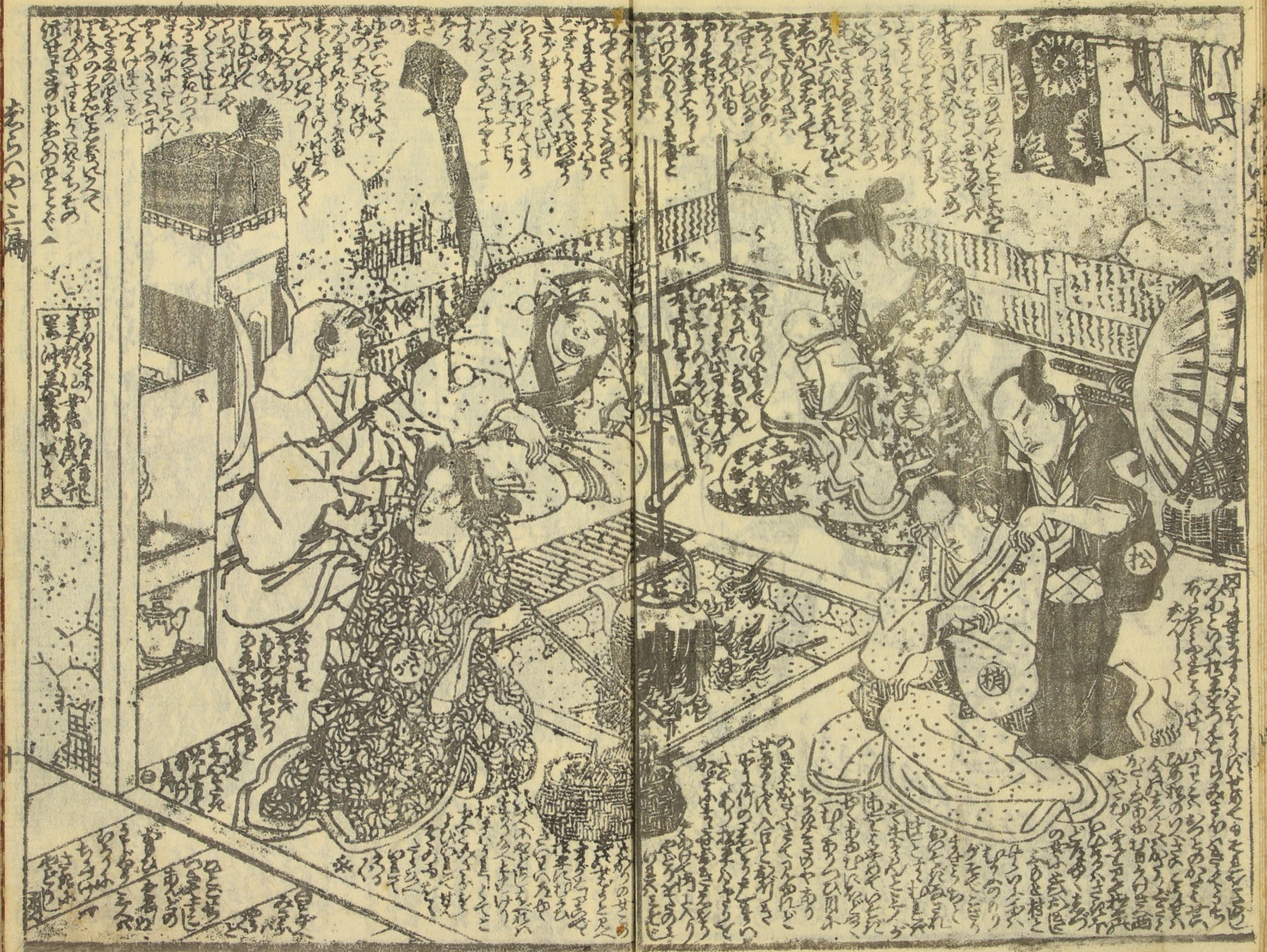
八ノ下

八ノ上

八ノ下

八ノ上





大正十一年

美濃の昔話
お茶屋の物語

お茶屋の物語
お茶屋の物語
お茶屋の物語

お茶屋の物語
お茶屋の物語
お茶屋の物語

お茶屋の物語
お茶屋の物語
お茶屋の物語

お茶屋の物語
お茶屋の物語
お茶屋の物語

お茶屋の物語
お茶屋の物語
お茶屋の物語

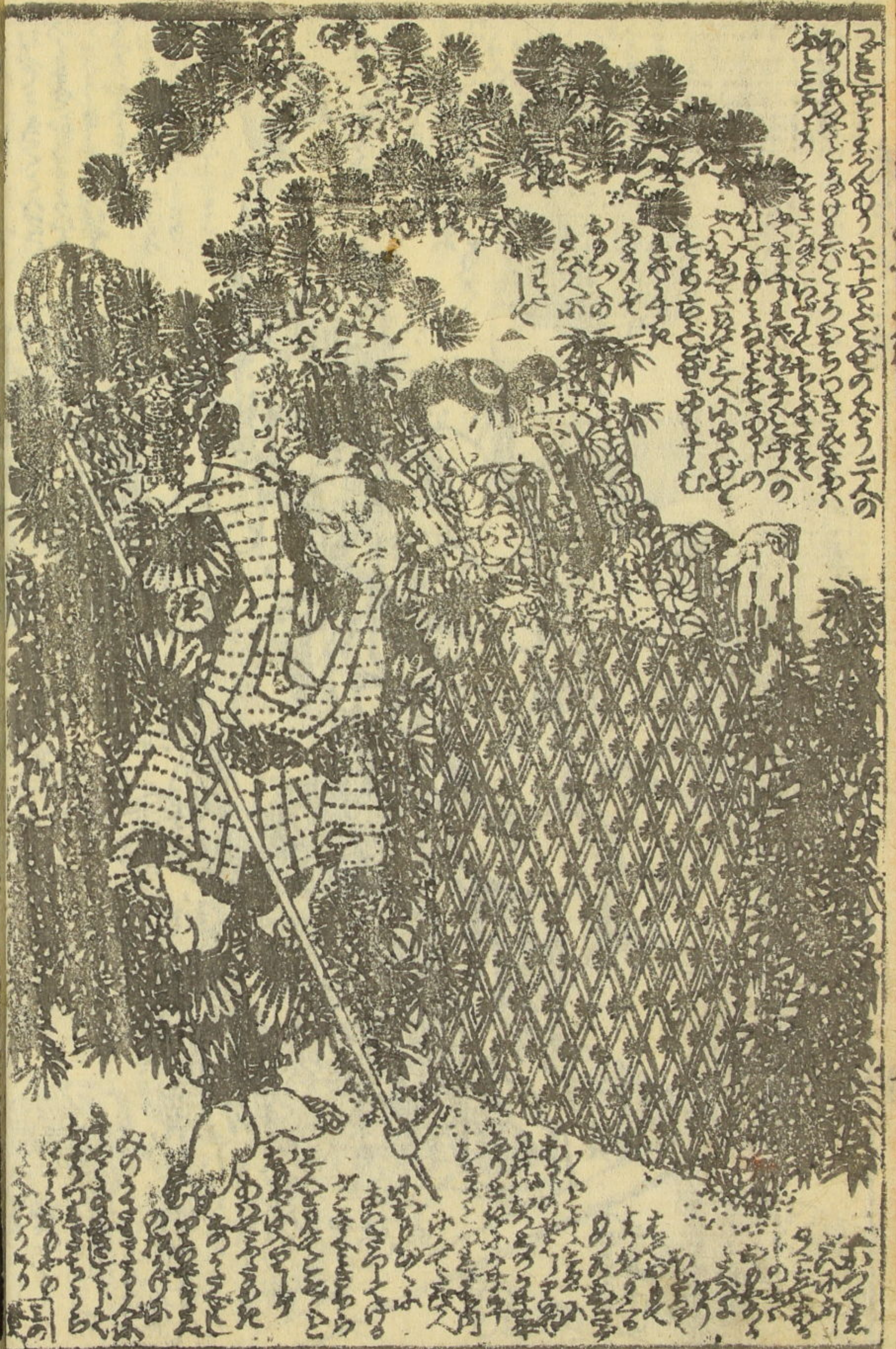
假名一休草紙

榊下亭種員作
一雄齋國輝画

三編より五編まで
板元敬白

初編一休の河母の孝貞の死をいふより河母結内のおやうり
の正和正徳が教習のふたつをいふ條の末と後を余候に二編の
及び三編の浦で出生す。すなはち幼き頃の形容なり。三編の
五編は江戸田の家純義史の流布とあり。六編と七編は
ついで當年よりついに頼朝の死。はなはた女地獄男達地獄
情助の巻の一路若さうの杯と譽せしむ。一休物語といふ
て後編の面白く耳たれる條のついでに合巻の七編の終り
一休のうしろ言洋書あり

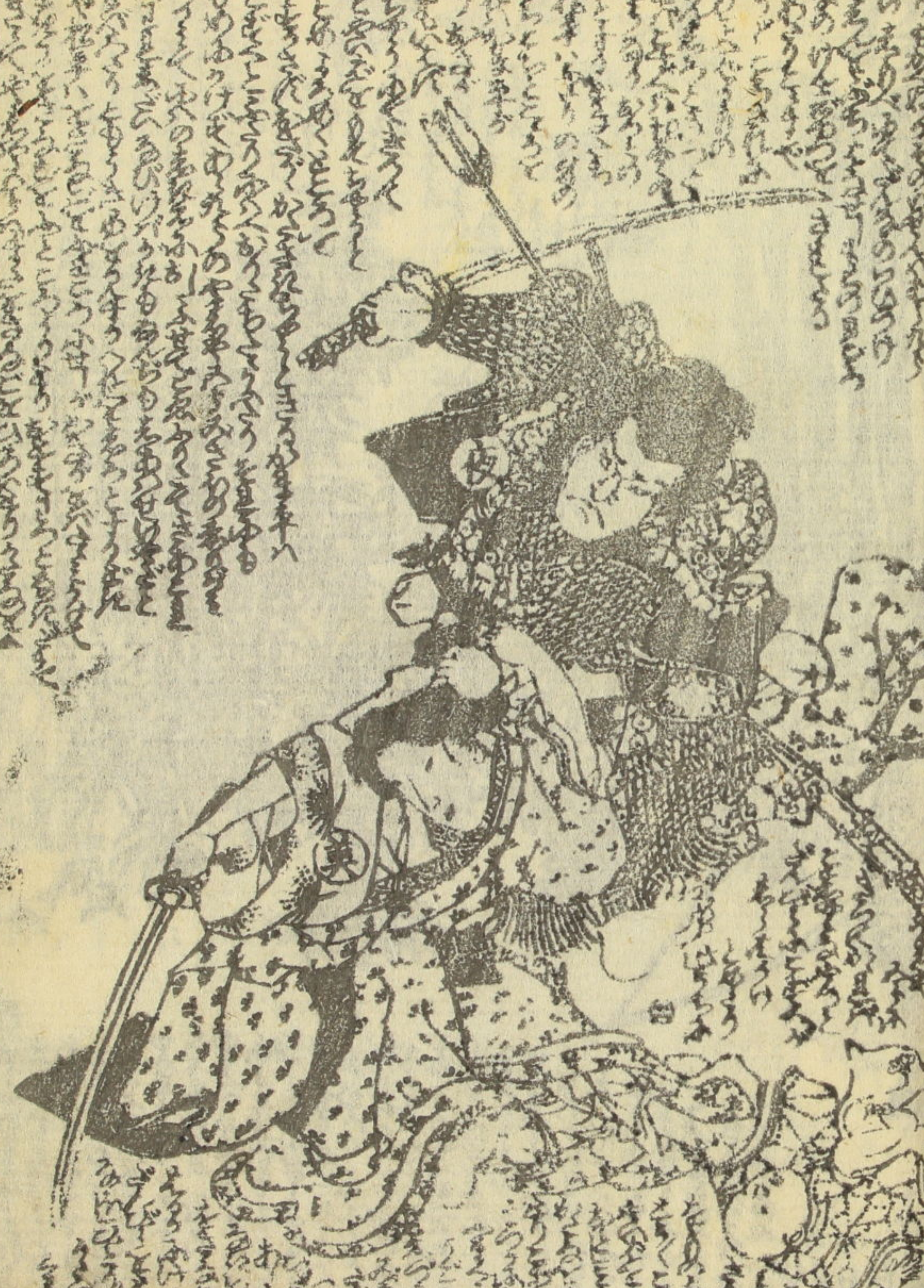
芝神明篇 甘泉堂 和泉屋市兵衛板



三編下
卷之三
卷之三



Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a narrative or commentary related to the illustration. The text is densely packed and covers most of the left page.



Handwritten Japanese text in vertical columns, continuing the narrative or commentary from the left page. The text is densely packed and covers most of the right page.





竹の森に立つる男

竹の森に立つる男
かほきとわらふまら
かほきとわらふまら
かほきとわらふまら

甘んぢる
かほきとわらふまら
かほきとわらふまら
かほきとわらふまら



竹の森に立つる男
かほきとわらふまら
かほきとわらふまら
かほきとわらふまら

甘んぢる
かほきとわらふまら
かほきとわらふまら
かほきとわらふまら

Handwritten text in a cursive script, likely a diary or journal entry, located at the top of the left page.



Handwritten text in a cursive script, located in the middle section of the left page, below the first illustration.



Handwritten text in a cursive script, located at the bottom of the left page, below the second illustration.

Vertical handwritten text on the far left margin of the left page.

Handwritten text in a cursive script, located at the top of the right page.



Handwritten text in a cursive script, located at the bottom of the right page, below the illustration.

Vertical handwritten text on the far right margin of the right page.

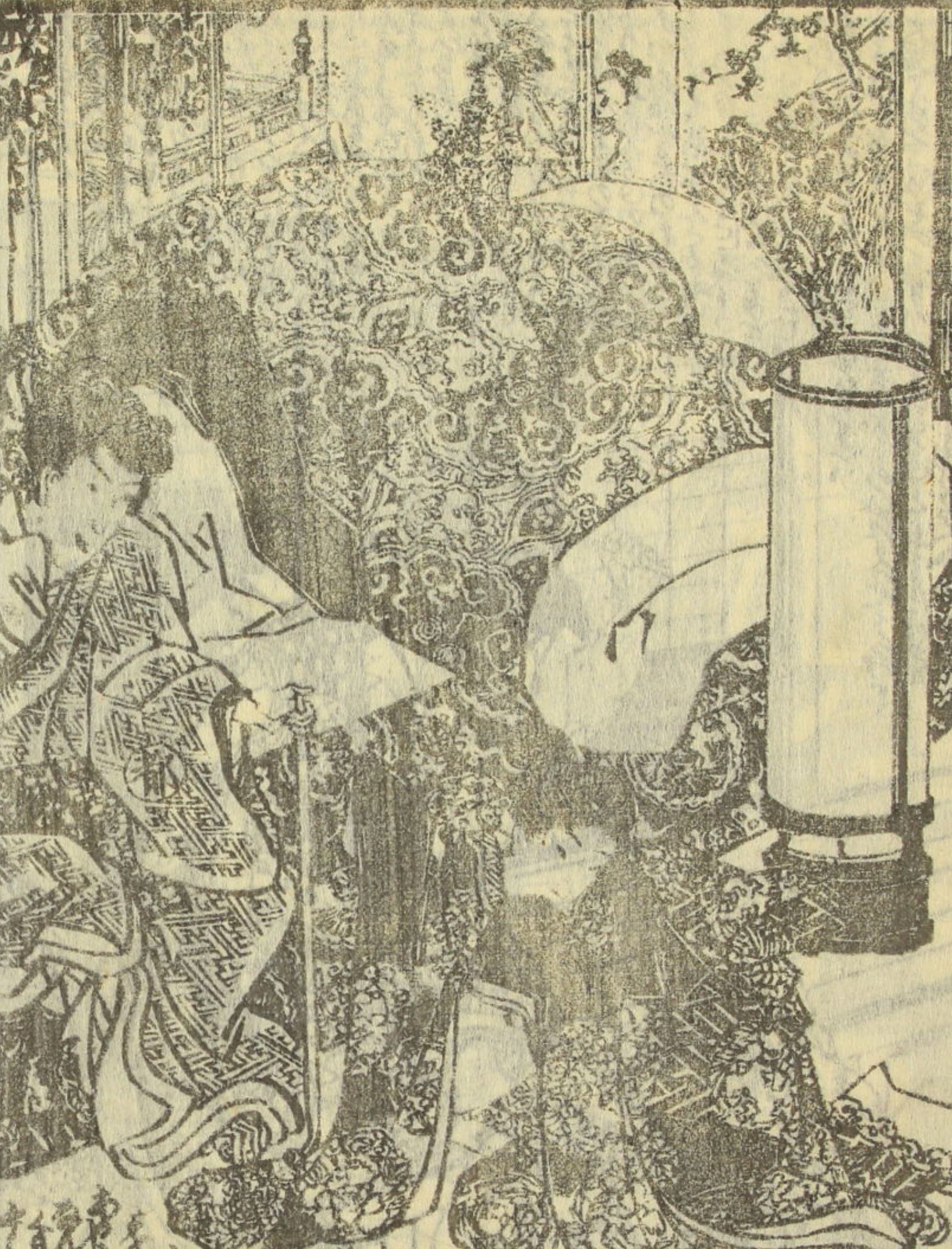


Handwritten Japanese text, likely a narrative or commentary, positioned above the illustration on the left page.

Handwritten Japanese text, likely a narrative or commentary, positioned below the illustration on the left page.

Handwritten Japanese text, likely a narrative or commentary, positioned below the illustration on the right page.

Illustration of a woman in a kimono sitting in a chair, with a large decorative screen behind her and a tall lamp to the right. The scene is a traditional Japanese interior.



Textual commentary in cursive script, likely describing the scene or the character.



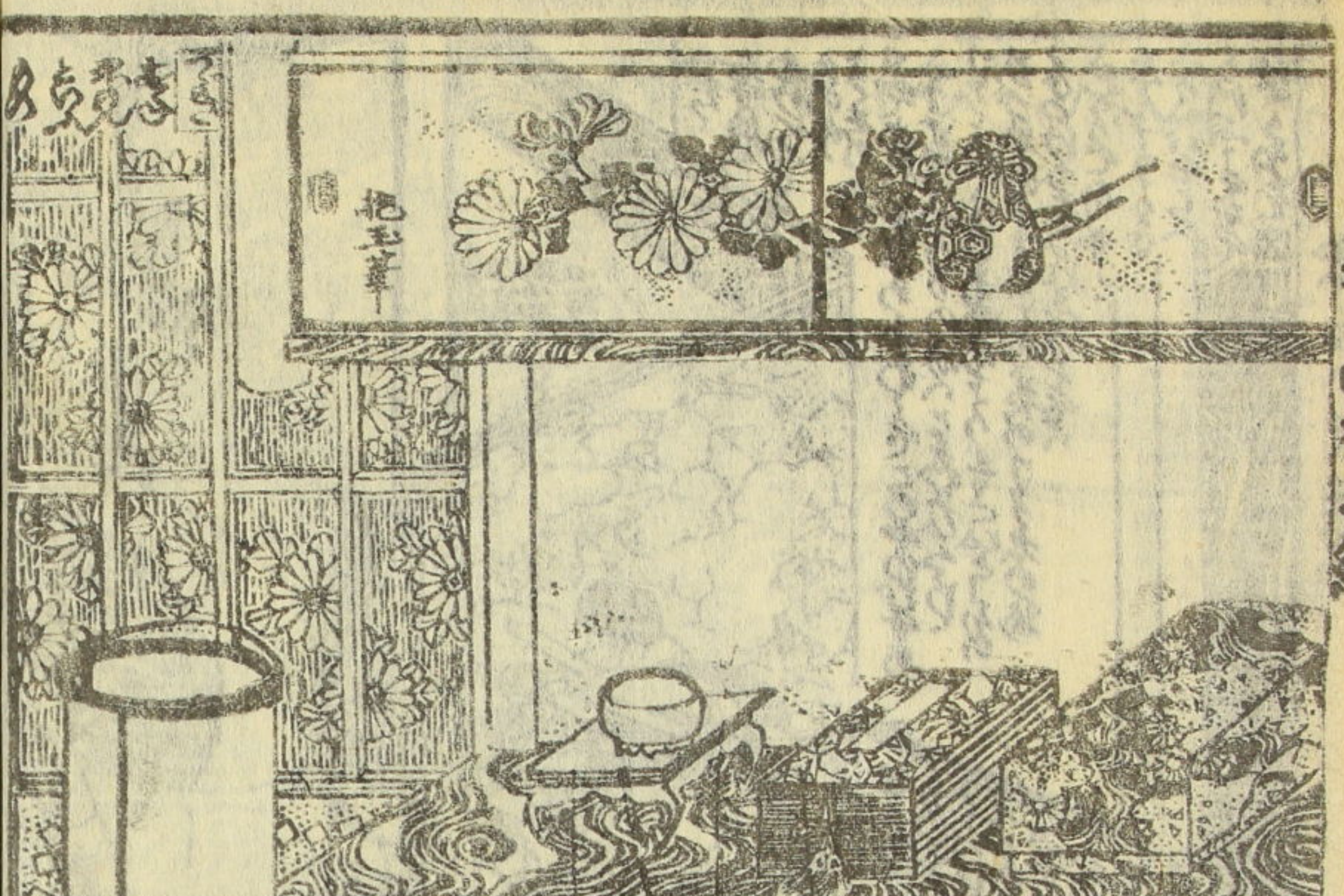
Textual commentary in cursive script, likely describing the scene or the character.

Textual elements in the top left corner of the page.

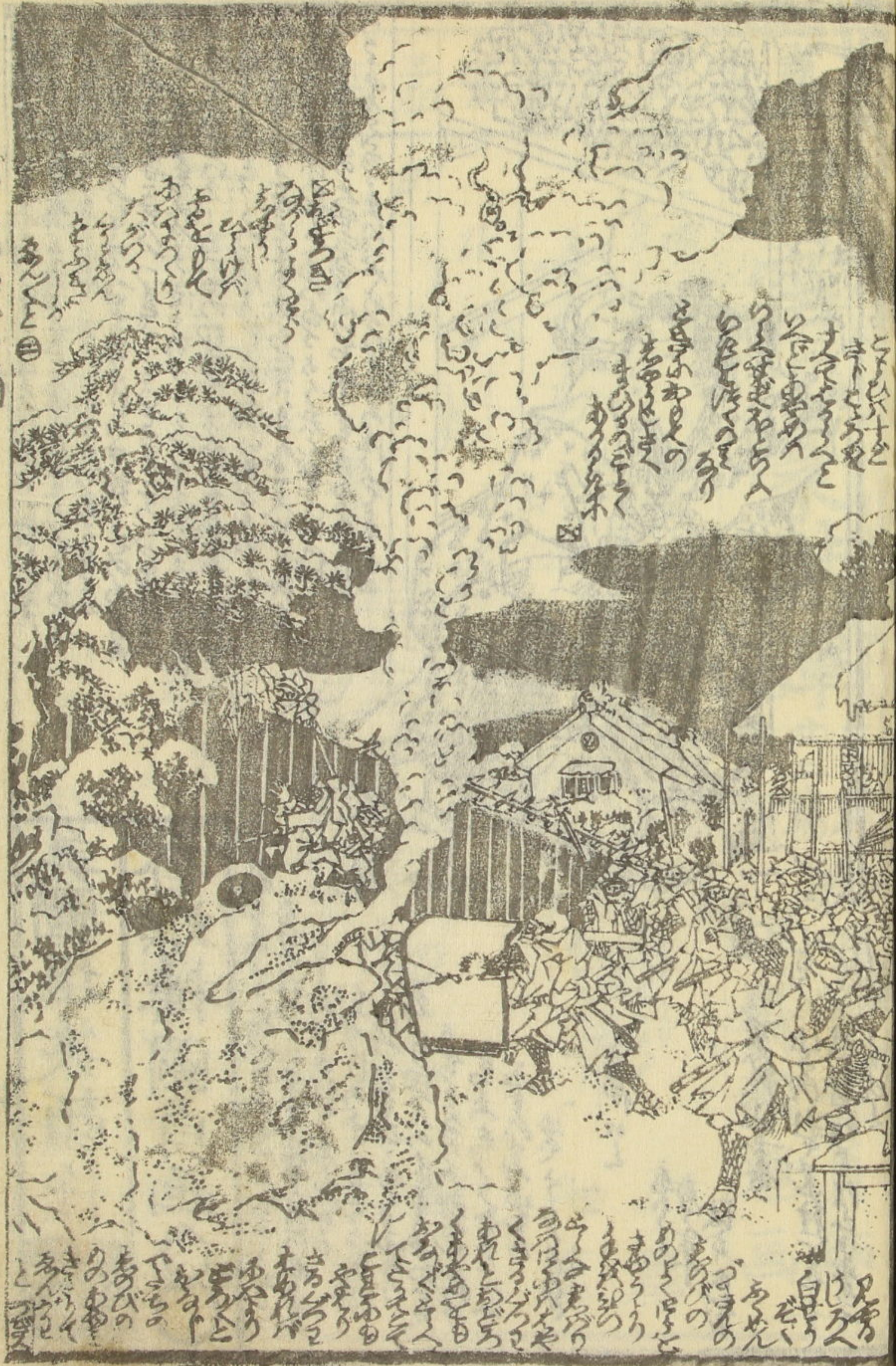
510 下

花の香りにては...
 春の風をよめる...
 花の香りにては...
 春の風をよめる...

花の香りにては...
 春の風をよめる...
 花の香りにては...
 春の風をよめる...



花の香りにては...
 春の風をよめる...
 花の香りにては...
 春の風をよめる...



雪のふりかへて

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの



あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

嘉永六年癸丑孟陬發市標目

兒雷也豪傑譚

廿一篇 柳下亭種員作
廿二篇 一雄齋國輝画
廿三篇

女家心
一 益齋芳虎画

今業平昔面影

六篇 六篇
七篇

祥瑞白菊物語
錦朝樓芳虎画

祥瑞白菊物語

五篇 六篇

新編金瓶梅全輯

自初編 至十編 大尾
曲亭馬琴翁作
一陽齋豐國画

書肆甘泉堂芝神明前 和泉屋市兵衛版



美圖垣笑顏作
香蝶樓國貞画

美圖垣笑顏作
香蝶樓國貞画
此は美圖垣笑顏の作にして
香蝶樓國貞の画にして
此の二冊は美圖垣笑顏の作にして
香蝶樓國貞の画にして
此の二冊は美圖垣笑顏の作にして
香蝶樓國貞の画にして

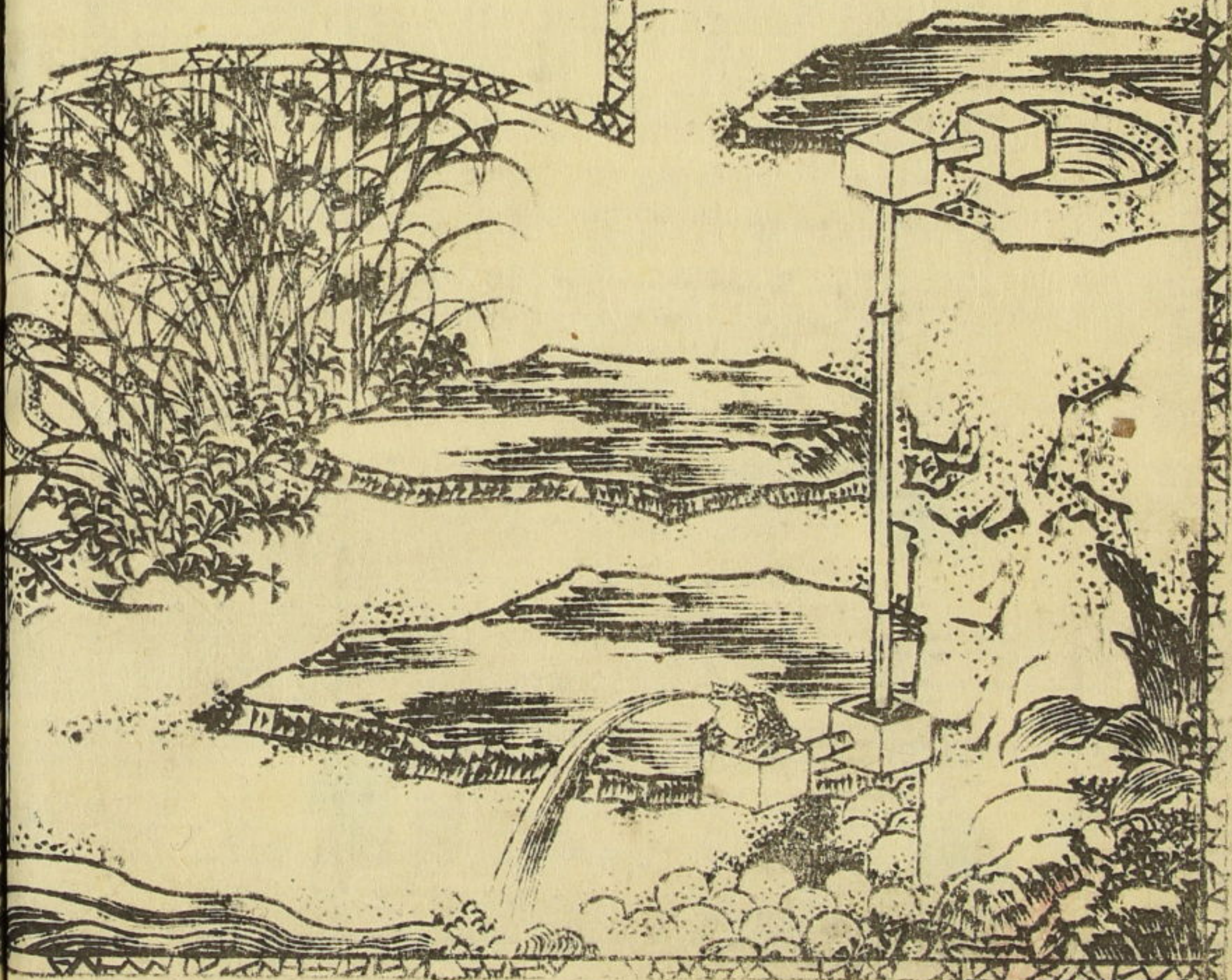
豪傑譚
兒雷也
上册
四篇



見雷也豪傑譚

四編 笑顔作 全四冊 國貞画

廿之神明前三鳥町 甘泉堂梓



昔、蛙合戦の初、八幡日本紀稱徳帝の時、
景雲二年、肥前八代郡蝦蟇原、河原、可七文南、向去、及
日暮、春不知去處、其日、甲集、後堀川帝、高陽院、殿南
有、蝦蟇、養、故、一、為、群、左、右、相、構、戦、或、咬、殺、半、死、如、此
教、日、京、師、人、争、見、之、其、後、の、人、中、も、多、見、入、り、下、小、川、之、蛇、と、蝦
蟇、の、戦、小、蛙、の、油、蛇、と、の、蛇、を、殺、せ、り、良、山、随、筆、あり
是、ホ、の、を、記、し、人、蝦、蟇、と、人、蛇、小、因、わ、れ、り、序、ふ、る、の、也
天保十二年寅年正月 美圖垣笑顔

あるの、
信濃國
宿の、
村の、
長、
持丸、
雷貞太郎





用宿の
馬士

見雷也

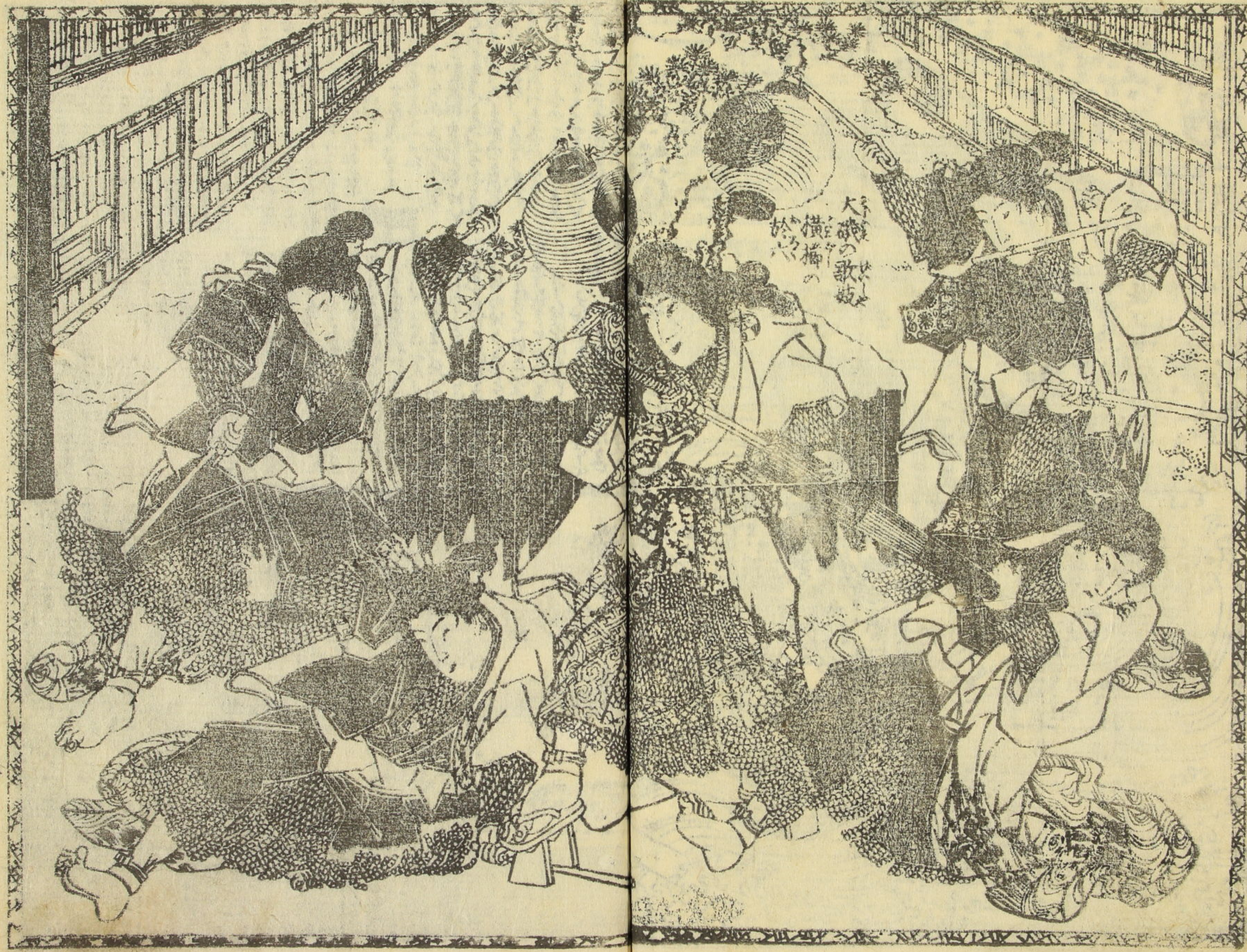


見雷也 妖術と以て分所大鰐
とあるは 水尾家の陣代八幡麻六郎
を始に其船と云はて海中に解け

見雷也

深雪

水尾家
陣代八幡
麻六郎



大蔵の歌妓

大蔵の歌妓
横橋の於六

下...の...
...の...
...の...
...の...

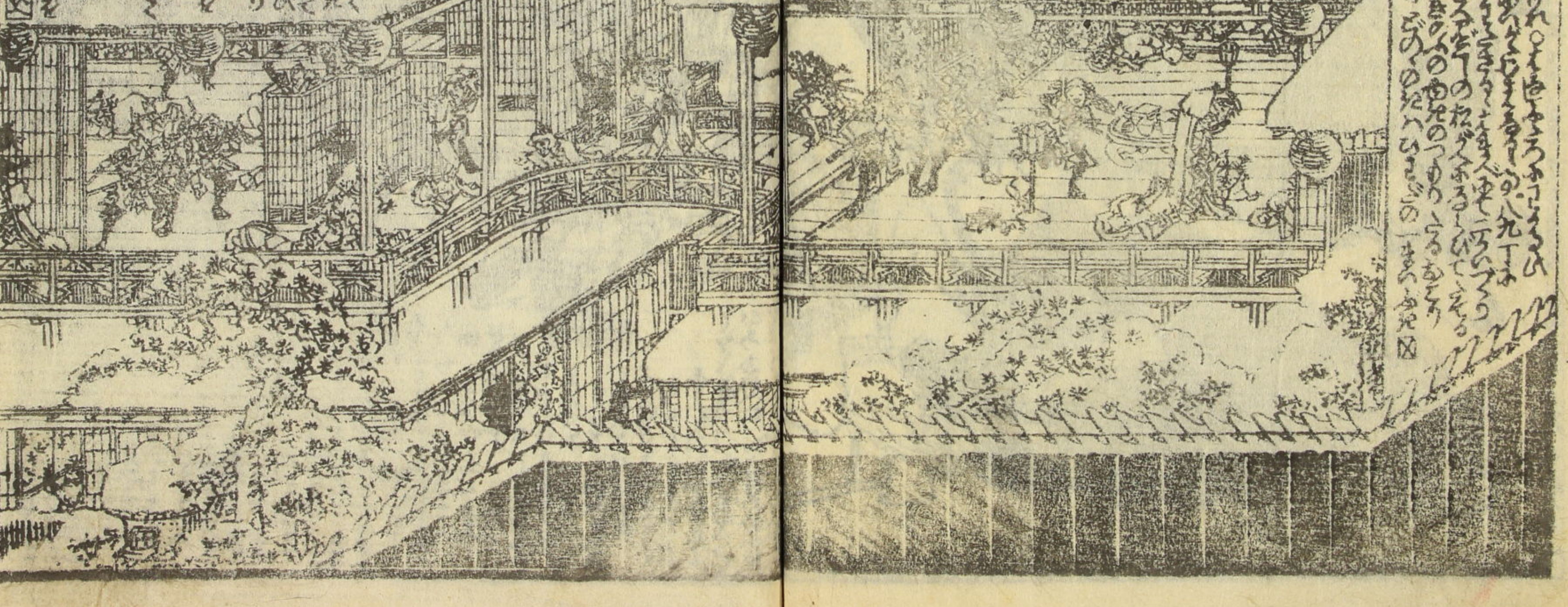
...の...
...の...
...の...
...の...

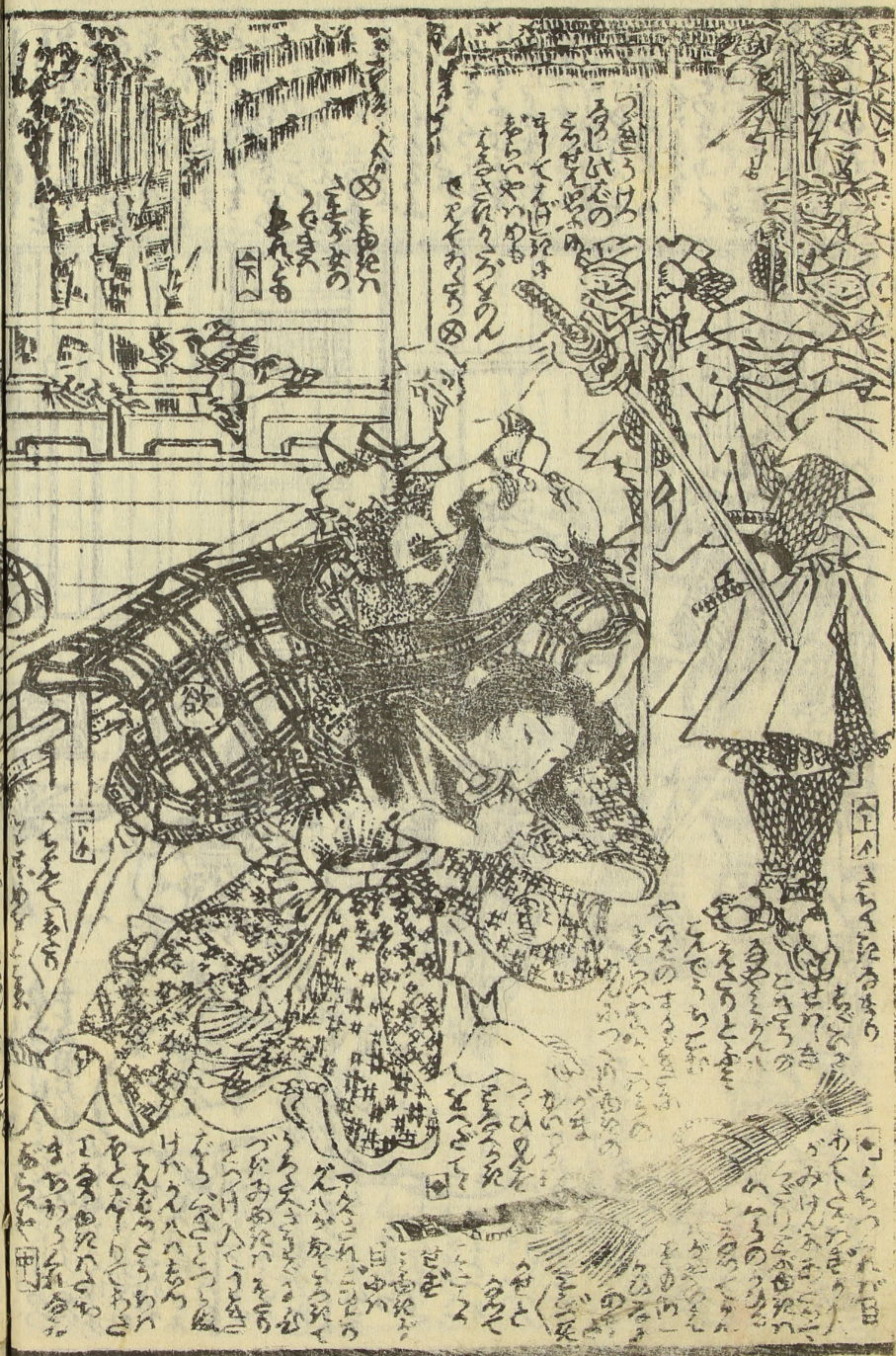
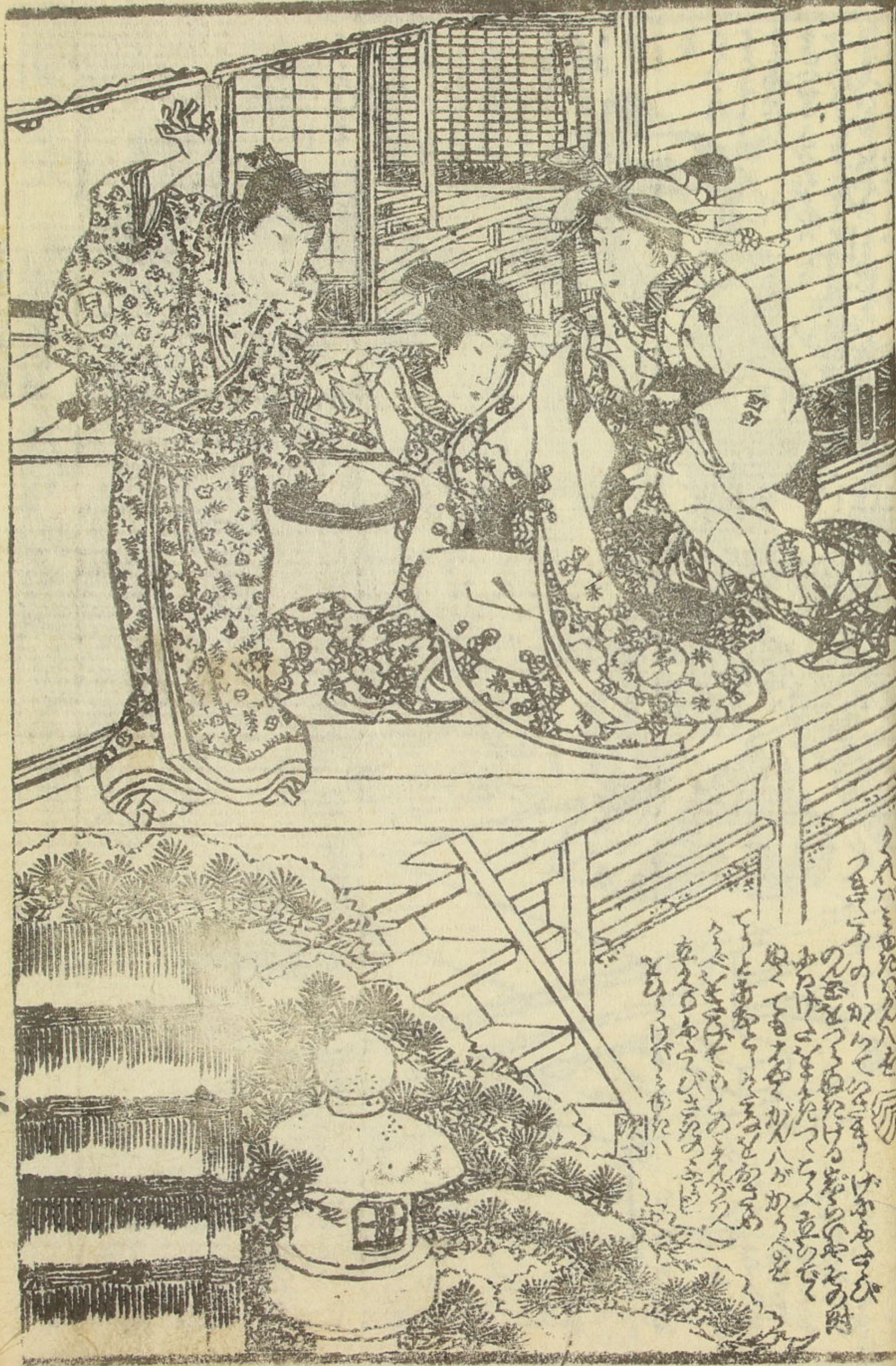
...の...
...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...
...の...

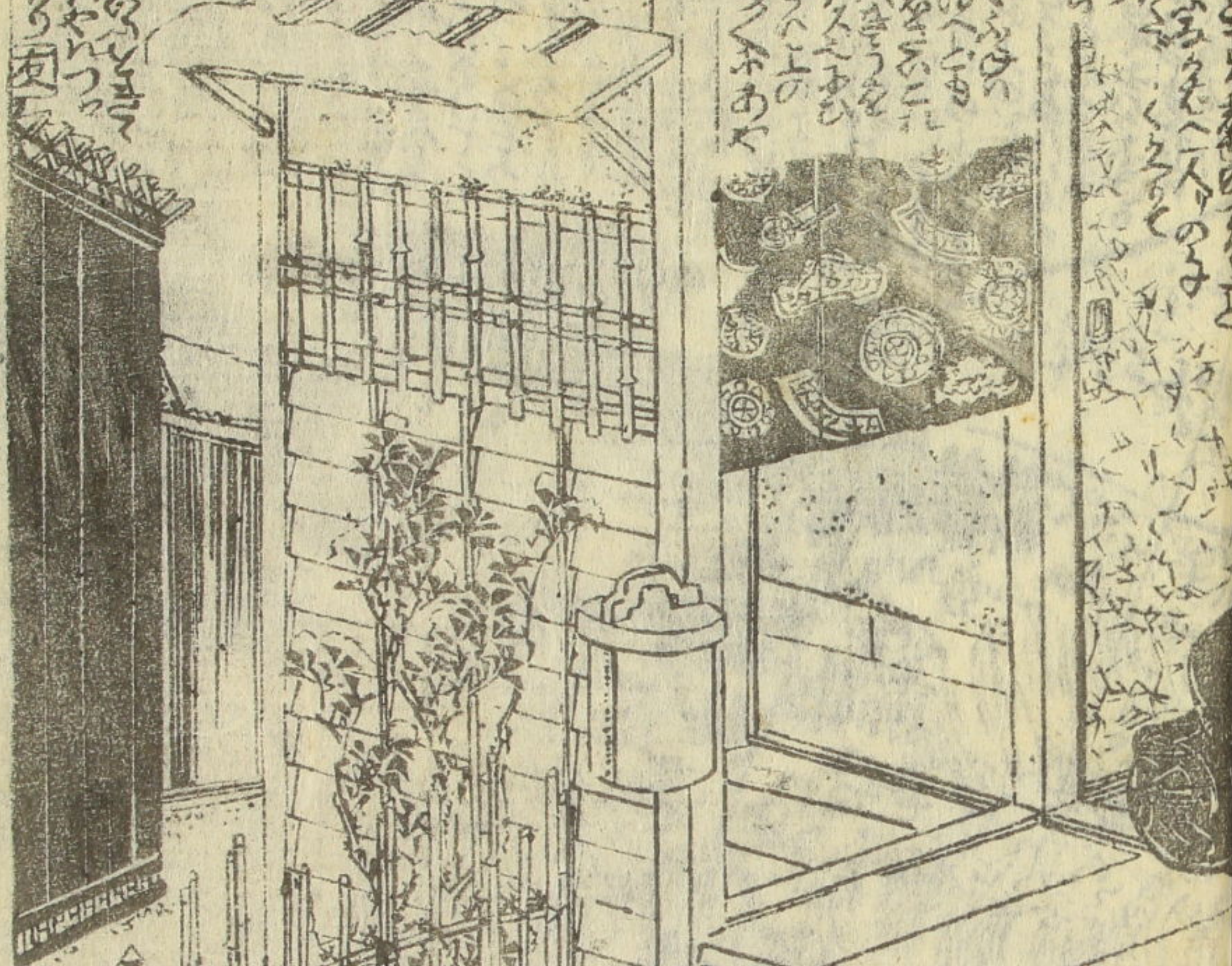
...の...
...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...
...の...





ついでに... 女... 七...



七... 大の用心... せ小...

... 普...



... 六... 大の用心... せ小...

中つらむのなるを
あつとひたつち
あつとひたつち
あつとひたつち
あつとひたつち

あつとひたつち
あつとひたつち
あつとひたつち
あつとひたつち
あつとひたつち
あつとひたつち
あつとひたつち
あつとひたつち
あつとひたつち
あつとひたつち

あつとひたつち
あつとひたつち
あつとひたつち
あつとひたつち
あつとひたつち
あつとひたつち
あつとひたつち
あつとひたつち
あつとひたつち
あつとひたつち



あつとひたつち
あつとひたつち
あつとひたつち
あつとひたつち
あつとひたつち

嘉永七甲寅新板目錄

地本草紙問屋 芝神明前 和泉屋市兵衛板

小栗十騎
金沢八景

照天松操月鹿毛

初編 二編 三編
春風亭柳枝作
一雄齋國輝畫

今業平昔面影

仙果作
芳虎画

為永春水作
歌川國貞画

風俗淺間嶽

種久作
國貞画

黄金水大盃

初編 二編 三編

女郎花五色石臺

榎下真種員作
一雄齋國輝画
六編 七編 八編

小女郎缺怨麻環

曲亭馬琴作
一勇齋國芳画
三編 大尾

笑顏作 國貞画



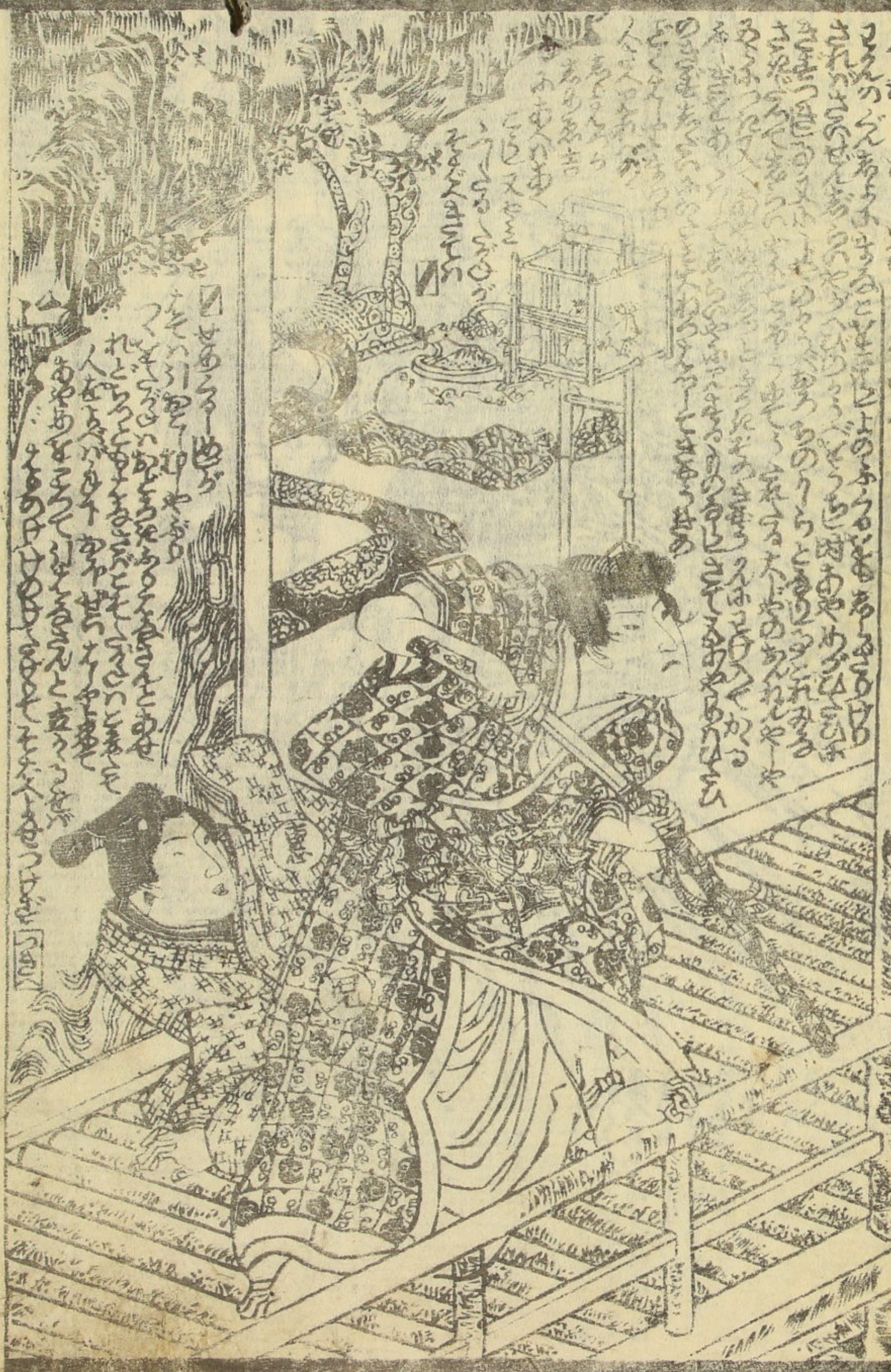
日本町

川口町
芳虎作
うららめ
白甘
大尾

况
雷也
四
錄
家
傳
錄
下
冊

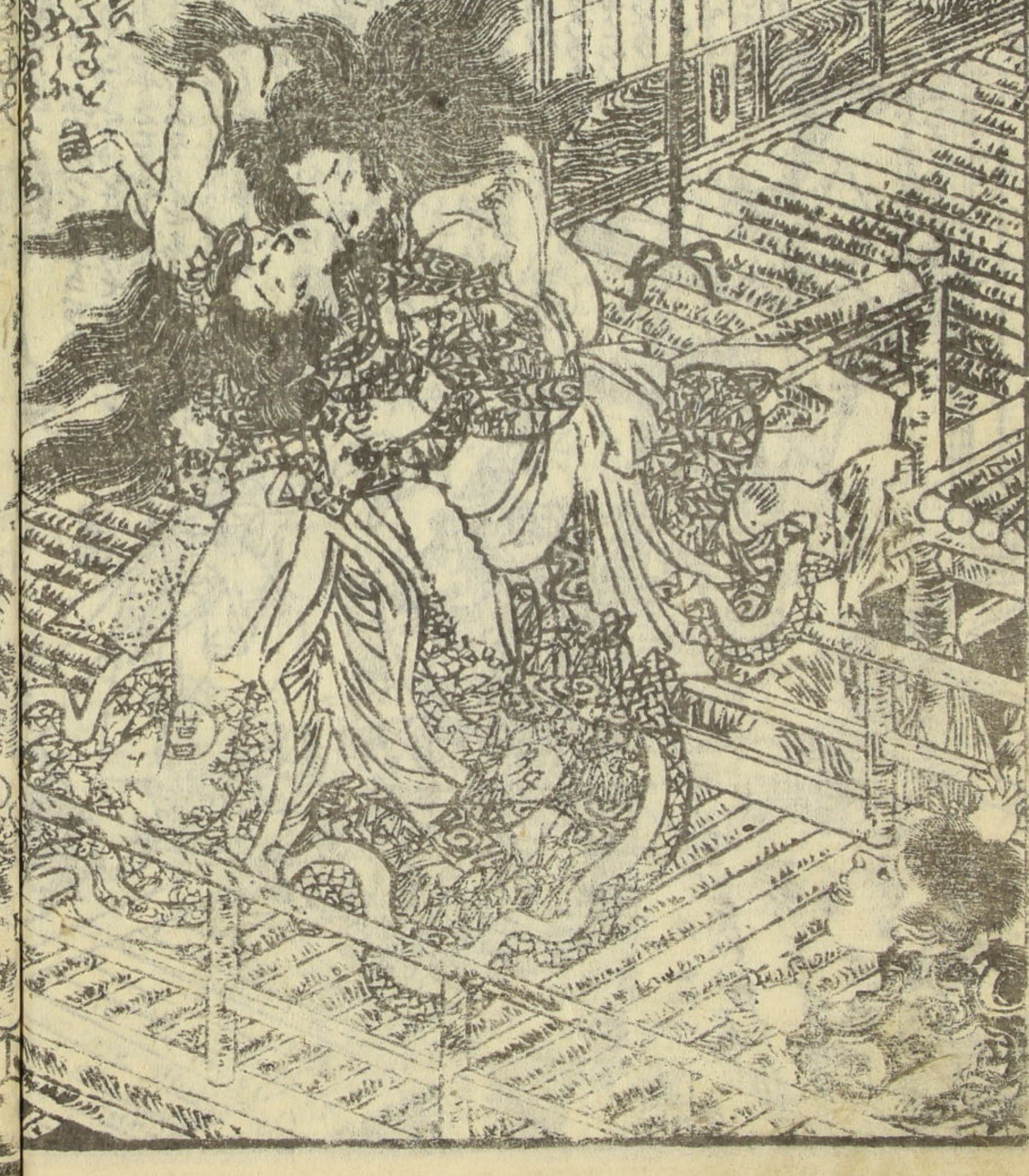




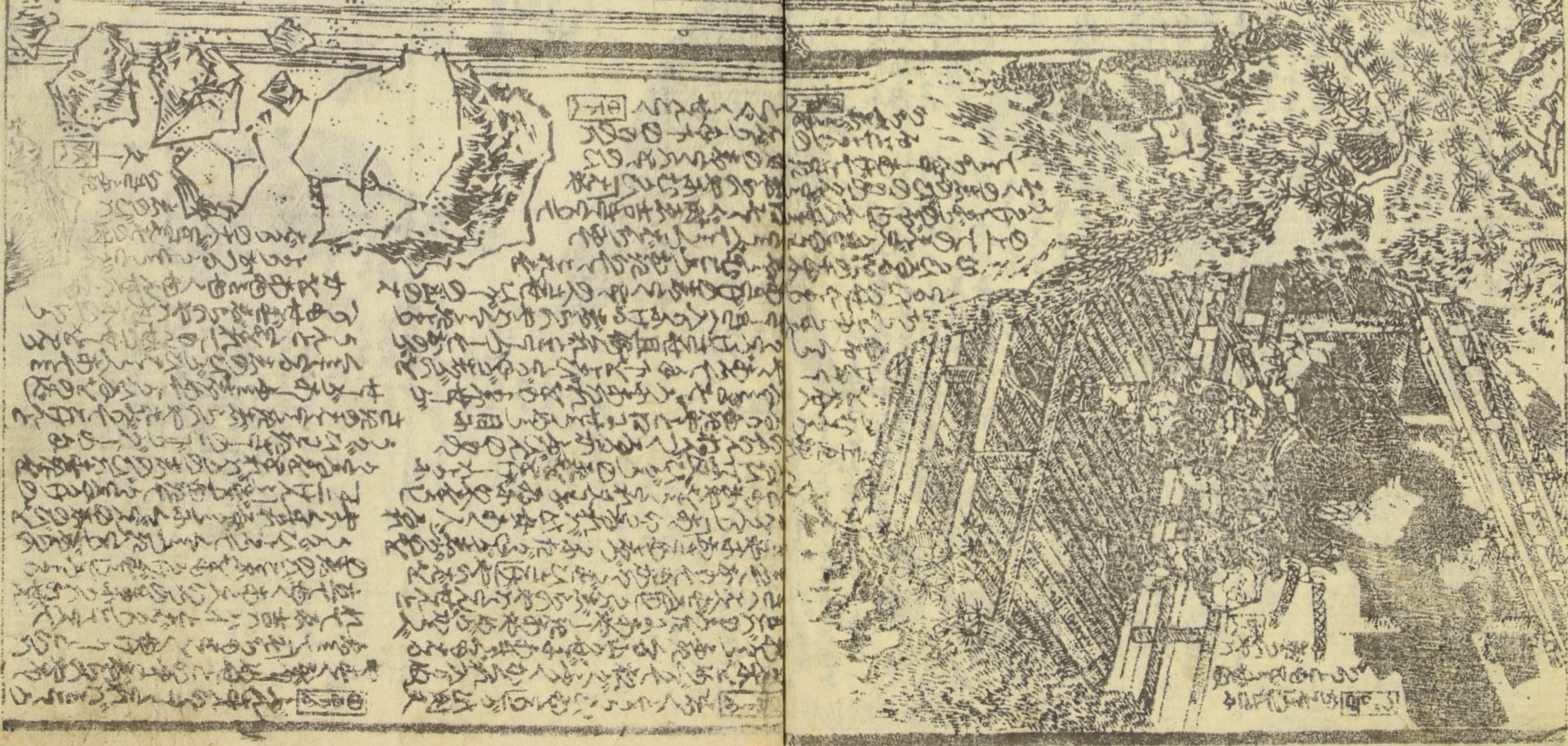
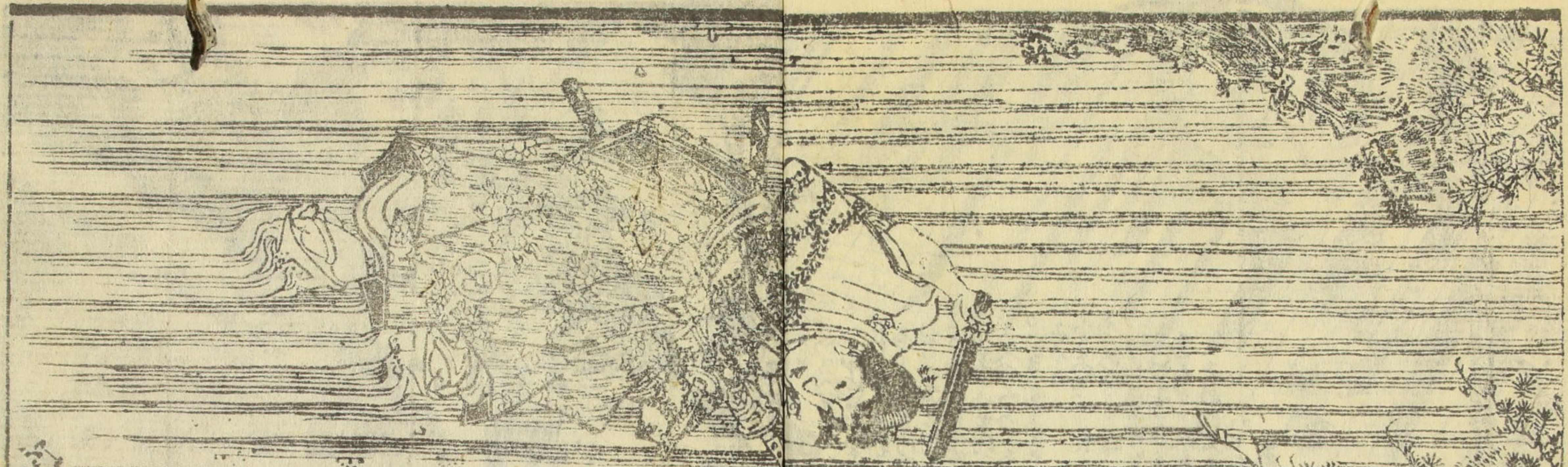


一ノ三ノ五ノ七ノ九ノ十一ノ十三ノ十五ノ十七ノ十九ノ二十一ノ二十三ノ二十五ノ二十七ノ二十九ノ三十一ノ三十三ノ三十五ノ三十七ノ三十九ノ四十一ノ四十三ノ四十五ノ四十七ノ四十九ノ五十一ノ五十三ノ五十五ノ五十七ノ五十九ノ六十一ノ六十三ノ六十五ノ六十七ノ六十九ノ七十一ノ七十三ノ七十五ノ七十七ノ七十九ノ八十一ノ八十三ノ八十五ノ八十七ノ八十九ノ九十一ノ九十三ノ九十五ノ九十七ノ九十九ノ百

上てあつて
 足す目のあつて
 ありたあき
 おとろたろち
 みせて目
 ともたつて
 けりあり
 その時
 おろしや
 まくらとまら
 むねりて
 ありちか
 ことゆ
 そのあ
 かそれた
 ことお
 まえは
 女
 おろし
 ありちか
 むねりて
 ありちか
 ことゆ
 そのあ
 かそれた
 ことお
 まえは
 女

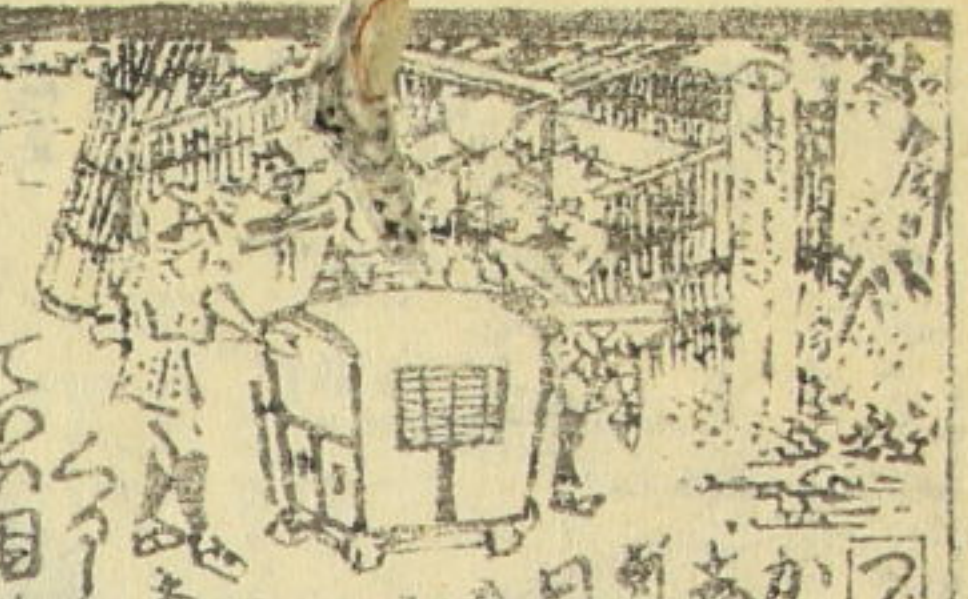


ことゆ
 そのあ
 かそれた
 ことお
 まえは
 女
 おろし
 ありちか
 むねりて
 ありちか
 ことゆ
 そのあ
 かそれた
 ことお
 まえは
 女



Vertical columns of handwritten text in a cursive script, likely Chinese characters, located between the two illustrations on the left page.

Vertical columns of handwritten text in a cursive script, likely Chinese characters, located between the two illustrations on the right page.



この町は、昔より名産の
物が多い。特に、この
水は、清く、冷たく、



この町は、昔より名産の
物が多い。特に、この
水は、清く、冷たく、

この町は、昔より名産の
物が多い。特に、この
水は、清く、冷たく、



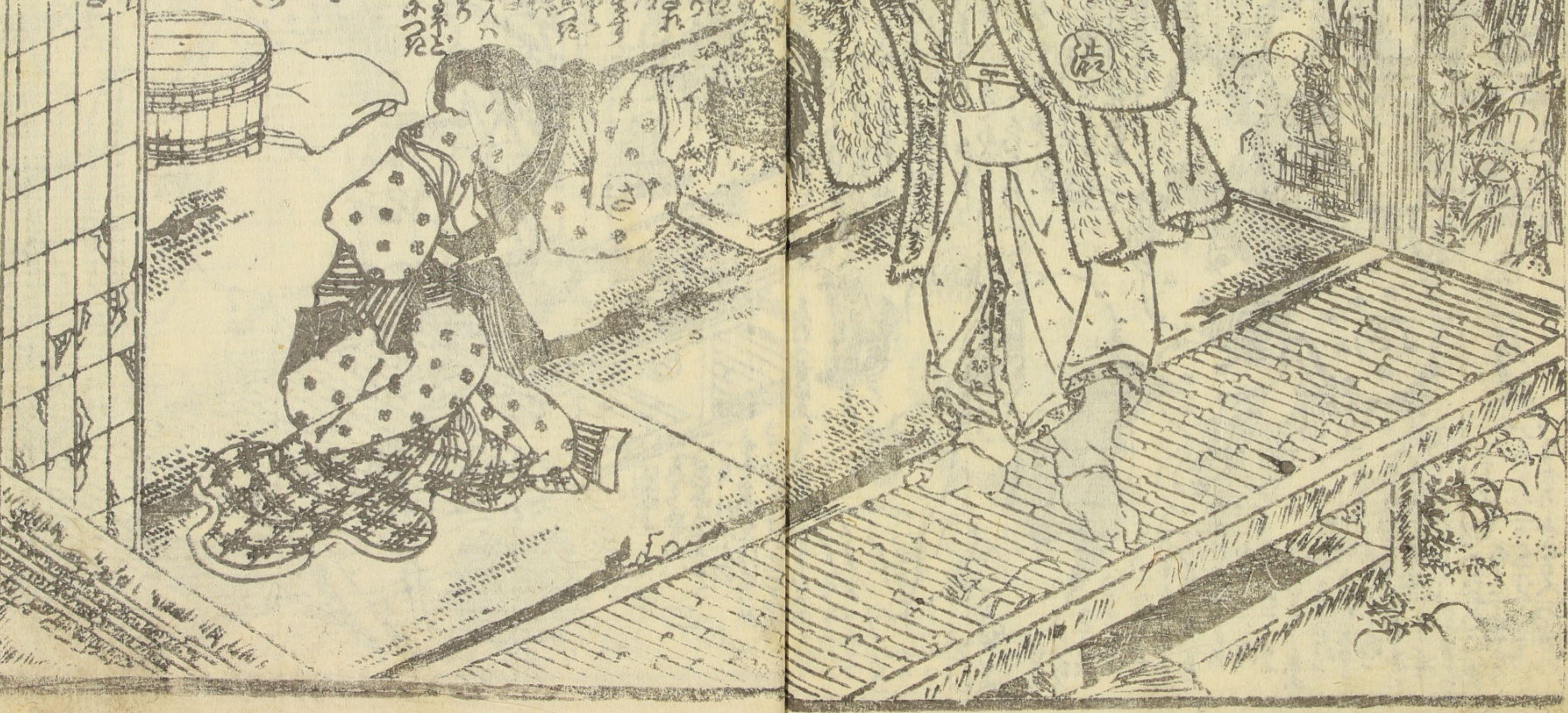
この町は、昔より名産の
物が多い。特に、この
水は、清く、冷たく、

ついでにうしろの
あつちをまわりの
くさつたぬまの
うしろにたつた
あつちをまわりの
くさつたぬまの
うしろにたつた

あつちをまわりの
くさつたぬまの
うしろにたつた
あつちをまわりの
くさつたぬまの
うしろにたつた

あつちをまわりの
くさつたぬまの
うしろにたつた
あつちをまわりの
くさつたぬまの
うしろにたつた

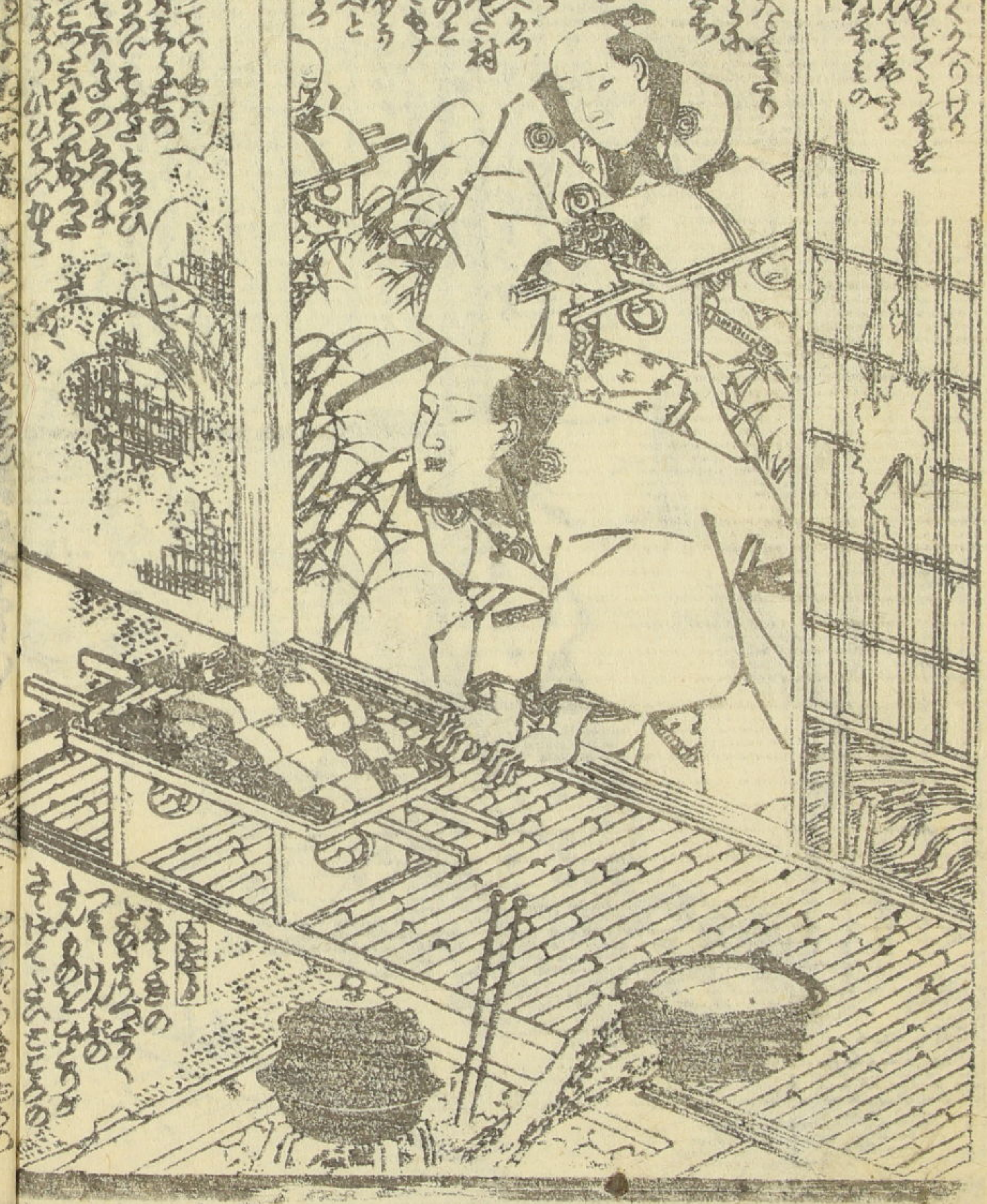
あつちをまわりの
くさつたぬまの
うしろにたつた
あつちをまわりの
くさつたぬまの
うしろにたつた



Vertical text columns on the left page, including the page number '100' and the page title '山崎の山' (Yamazaki no Yama).



Vertical text columns on the right page, including the page number '101' and the page title '山崎の山' (Yamazaki no Yama).



美圖垣笑顏作
 赤標樓國貞画



松鶴賀艶諸聲全六冊
 笑顏作 國貞画
 美圖垣笑顏作
 赤標樓國貞画

兒雷也豪傑譚

廿四編
 廿五編
 廿六編
 廿七編

柳下亭種員作
 一雄齋國輝画

楠二代軍記

二編

海望亭作
 芳虎画

櫻紅葉命棧

二冊

琴彦作
 芳虎画

新編金瓶梅

十編

馬琴作
 大尾豐國画

假名一休草紙
 及古

柳下亭種員作
 一雄齋國輝画

地本錦繪問屋

芝神明前

甘泉堂和泉屋市兵衛板



笑顏作
國貞畫

兒雷也

豪傑

禪

四編



後玉筆

亦正筆

